

国際観光学科共同研究（3ヵ年）報告書

多文化共生社会と留学生
—異文化理解教室をめぐる—
(平成 26 年度)

平成 27 年 2 月

中野はるみ

滝 知則

小島 大輔

谷口佳菜子

Brendan Van Deusen

NIU 異文化理解研究室

長崎国際大学人間社会学部国際観光学科

国際観光学科共同研究（3ヵ年）報告書

多文化共生社会と留学生
—異文化理解教室をめぐる—
(平成 26 年度)

平成 27 年 2 月

中野はるみ

滝 知則

小島 大輔

谷口佳菜子

Brendan Van Deusen

NIU 異文化理解研究室

長崎国際大学人間社会学部国際観光学科

国際観光学科共同研究（3ヵ年）報告書
多文化共生社会と留学生—異文化理解教室をめぐる—
（平成 26 年度）

目 次

目次	2
本共同研究の概要	3
【論説】	
感想文にみられる異文化理解（中野はるみ）	5
学んでから遊ぶか、遊んでから学ぶか（滝知則）	16
日本における留学生の資源性に関する一考察（小島大輔）	21
外国人留学生が企業に求められる能力の養成に関する一考察（谷口佳菜子）	27
【平成 26 年度活動報告】	
国際交流の草分けクラブとの交流（中野はるみ）	33
いのちを見つめる月間の異文化理解教室（中野はるみ）	39
留学生たちの文化を受け入れる国際交流（佐世保市立広田小学校）（滝知則）	42
波佐見町立東小学校での出前授業（小島大輔）	46
アニメで教える外国語（中野はるみ）	51
佐世保市立江上小学校 4 年生と異文化交流（谷口佳菜子）	53
異文化との共通点への気づき（佐世保市立小佐世保小学校）（滝知則）	59
参加者の生きている場所と時間を広げる国際交流（長崎市立尾戸小学校）（滝知則）	62
【留学生メンバーの感想】	65
【広報活動 ホームページ掲載文】	
佐世保インターナショナルレディースクラブの皆さんとの国際親善	79
佐世保市立宮小学校で NIU 異文化理解教室を行いました。	83
異文化理解研究室のメンバーが中央大学文学部人文社会学科教育学専攻の学生	87
NIU 異文化理解研究室懇談会を開催しました。	88
佐世保市立広田小学校で NIU 異文化理解教室を開催しました。	89
九州文化学園高校で異文化理解教室を実施しました。	92
広田小学校の「広っ子フェスティバル」に出演しました。	94
長崎市立尾戸小学校で NIU 異文化理解教室を開催しました。	97
佐世保市立小佐世保小学校で NIU 異文化理解教室を行いました。	100
【APPENDIX】	
NIU 異文化理解研究室所有教材一覧	103
「NIU 異文化理解教室」申込書	107

本共同研究の概要

所 属 長崎国際大学人間社会学部国際観光学科
期 間 平成 24 年度 平成 25 年度 平成 26 年度 (3 ヶ年計画・下線は本年度)
課 題 多文化共生社会と留学生—異文化理解教室をめぐって—
構成員 中野はるみ 滝知則 小島大輔 谷口佳菜子 Brendan Van Deusen
(下線は研究代表者)

【趣旨】

本研究は、これまでの研究「佐世保地域の異文化理解教育を支援するプログラムの開発」(平成 15 年 4 月～平成 18 年 3 月)「異文化理解教育を支援するプログラムの開発」(平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月)「留学生と日本社会の研究—異文化理解教室をめぐって—」(平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月)を継承・発展させたものである。本研究では、これから迎える多文化共生社会を留学生との活動を通して考え、日本社会のありかたを広く探ることになる。

現在、日本には留学生が 14 万人弱いるのだが、その留学生もまた、さまざまな国からの留学生が増え、日本社会は異文化が混ざりあう社会へと変容しつつあるといえる。平成 24 年度からの異文化理解教室の活動は、顔かたちが似ている東アジアからの留学生に加え、東南アジアからの留学生が増えつつある。本学の留学生と周辺地域の小中学生が、いかに接触し、いかに共生社会のもととなる異文化受容をなしていくかを、異文化理解場面を創出しながら調査していくことになる。それはまた、本学の地域貢献にもなるはずである。

【経過概要】

<事業計画>

第 1 年度 (2013 年) : 異文化理解教室の実施とガイドノートの活用。

第 2 年度 (2014 年) : 異文化理解教室の実施とガイドノートの追加活用。

第 3 年度 (2015 年) : 異文化理解教室の実施と研究のまとめ。

3 年間を通して 5 名の研究者は異文化理解教室実践に随行しながら、それぞれのテーマで研究していくこととなっている。

<事業経過>

2015 年度 (3 年目) は、佐世保インターナショナルレディーズクラブ (SILC) の皆さんとの国際親善に始まり、中央大学文学部人文社会学科教育学専攻の学生さんたちの聞き取り調査、NIU 異文化理解教室懇談会と、新たな活動が続いた。NIU 異文化理解教室は、佐世保市立宮小学校に始まり、7 か所の教育機関で行った。出前留学生は延べ 57 名で、国籍は中国と韓国をはじめ、ネパール、フィリピン、ベトナム、ミャンマーの東南アジアへと、多国籍化している。今年度の異文化理解教室で留学生と交流した生徒数は、860 名に上った (SILC の皆さんを含む)。

論 説

感想文にみられる異文化理解

中野はるみ

目次

はじめに

I 感想文の分析

I-1 留学生の感想文

I-2 日本人の感想文

II これからの出前授業のポイント

おわりに

はじめに

4期12年の終わりにあたり、これまでの活動の総括として、報告書に記載されている「感想文」を分析し、これからの活動の活性化を探りたいと思う。本論の具体的な研究目的は2つある。1つ目はNIU異文化理解教室が、留学生の異文化理解（日本理解）や日本人生徒たちに如何に寄与しているかを探ることであり、2つ目はNIU異文化理解教室を実りあるものとするための仕掛け作り、とくに留学生自身の喜びともなり、対象生徒にも喜んでもらうための仕掛け作りのポイントについて述べることにする。

I 感想文分析

I-1 留学生の感想文

I-1-1 感想文記載について

本研究室の報告書は平成18年から26年までに下記のとおり9冊刊行されているが、留学生の感想文が記載されているのは下記のとおりである。

表1 NIU異文化理解研究室の報告書と感想文数

発行	タイトル	研究メンバー	実施数	生徒	留学生	感想文
18年 3月	佐世保地域の異文化理解 教育を支援するプログラ ムの開発 (平成15年～17年)	中野はるみ、田淵幸親 下島康史、佐藤大祐 城前奈美	15	1629	67	7
19年 3月	異文化理解教育を支援す るプログラムの開発—平 成18年度—	中野はるみ、田淵幸親 末松信子、滝知則 伊藤リナ、城前奈美	17	1527	111	8 (宇久)

20年 3月	異文化理解教育を支援するプログラムの開発—平成19年度—	中野はるみ、田渕幸親 末松信子、滝知則 伊藤リナ、城前奈美	15	1312	111	11
21年 3月	異文化理解教育を支援するプログラムの開発—平成20年度—	中野はるみ、田渕幸親 末松信子、滝知則 城前奈美	19	1961	127	無
22年 3月	留学生と日本社会の研究—異文化理解教室をめぐって—（平成21年度）	中野はるみ、田渕幸親 滝知則、谷口佳菜子	10	1273	75	無
23年 3月	留学生と日本社会の研究—異文化理解教室をめぐって—（平成22年度）	中野はるみ、田渕幸親 滝知則、谷口佳菜子	10	1500	84	無
24年 3月	留学生と日本社会の研究—異文化理解教室をめぐって—（平成23年度）	中野はるみ、田渕幸親 滝知則、谷口佳菜子	10	969	84	26
25年 2月	多文化社会と留学生—異文化理解教室をめぐって—（平成24年度）	中野はるみ、滝知則、 谷口佳菜子、 小島大輔、 Brendan Van Deusen	9	1196	75	12
26年 2月	多文化社会と留学生—異文化理解教室をめぐって—（平成25年度）	中野はるみ、滝知則、 谷口佳菜子、 小島大輔、 Brendan Van Deusen	7	721	75	12

このように、留学生の感想文は5冊の報告書に記載され、述べ65人から寄せられている。65人の感想文は文の長さおよび内容はさまざまである。感想文に書かれている異文化理解教室実施校と留学生の出身国は下記のとおりである。

表2 感想文寄稿の留学生表

出前授 業先				発行年 (各2月)	留学生 出身国			計	備考
小学校	中学校	高校 専修学校	その他		中国 ¹⁾ 男・女	韓国 男・女	その他 男・女		
2	2	2		18(2年分)	4・2		1	7	スリランカ
2	1	1		19	1・7			8	宇久
6		4	1	20	3・6	0・2		11	

5		1		24	10・6	3・7		26	
7	1	1	1	25	4・7	0・1		12	
6		1		26	0・7	1・1	1・2	12	ベトナム ミャンマー ネパール

I-1-2 感想文のキーワード

さて、感想文の内容について分析するにあたり、書かれている内容をキーワードによって分類してみる。

表3 感想文のキーワード分類表 (複数ワードあり)

NO	キーワード	18年	19年 ²⁾	20年	24年	25年	26年	計
1	教育（母国との比較）	1		1	8	2	1	13
2	日中・日韓の架け橋に	2		2		1		5
3	留学生の国の文化紹介	4	4	2	10	8	9	37
4	日本人・文化・社会理解	2		1	9		6	18
5	自民族の文化・歴史の再認識	1	1	1	2			5
6	授業以外の楽しさ（おしゃべり）		2			1	1	4
7	日本語力と発表の勉強		1		2			3
8	発表者が仲良くなったこと		1					1
9	自分を鍛えるチャンス				1			1
10	日本人との違い				1	3		4
11	文化の出会い			2	1			3
12	兄弟の愛・小学生の可愛さ			1	2		2	5
13	小学生の発表のすばらしさ			1	4	2	1	8

表3のキーワードは、感想文を読んで筆者が選んだキーワードであるが、特に目を引く感想の概要は下記のものであった。

・「日中・日韓の架け橋」としての役割を果たすことができたという感想には、「関係がよくないときにこそ、日本と母国との交流の必要性」や「日本に留学していることを実感した」と記されていた。（18年）

・「自分の国の文化紹介」では、生徒たちの「ウワー」という感嘆の声や自国に対する興味、関心を持ってきて質問されたことが嬉しいという感想が記されていた。（18年・19年）

・「自分の国の文化紹介」では、留学生は日本語や日本のことを学ぶが、自国の文化を

紹介する機会を持つことはとても大切なことだと気づいた。(19年)

・「日本の文化」では、「相撲」を小学生と一緒に体験して楽しかったことが記されている。(24年)

・「兄弟の愛・小学生の可愛さ」とは、「1年生から6年生までとの交流」があり「兄弟の愛を感じた」ことや、「それぞれかわいいとしかいえなかった」と記されている。(24年)

・「教育(母国との比較)」では、留学生に対して、自分たちが調べたことを紹介する小学生教育に対して、自分の国にはない。日本の教育は優れていると記されている。(24年)

・「小学生の発表のすばらしさ」では、「一番心に残ったのは、小学生の活気でした」と記されていて、「中国の小学生は、自由な発想や他人に対するコミュニケーション能力が乏しく、社会や生活に必要である理解が不足している」と記されている。(24年)

・「日本の文化・日本社会理解」では、小学校の先生方や地域住民との交流が「すごくたのしくて、心がとてもどかになりました」と記されている。(24年)

・「日中・日韓の架け橋」では、中学校の生徒に「餃子作り」を教えたときに、1人の女の子に「尖閣諸島問題をあなたはどう思っていますか」と聞かれた後、何回も頭に浮かんできた問題に対して、つぎの回答を導き出している。「そういう問題の解決は、相当な時間、財力特に各国歴史、首脳、民衆の意見が尊重されなければならない」「私たち一般庶民の間に文化や経済、民間活動などをよく交流して、より一層深く相互理解して、草の根の交流はより一層盛んで行くために、私たちの微力で大きな架け橋を作りましょう」と結ばれている。(25年)

・「教育(母国との比較)」では、母国にはない「給食」の良さが記されている。(26年)

I-1-3 感想文の分析

表3からわかることを列挙し、分析とする。

- 1) 異文化理解教室の目的そのものである「3留学生の国の文化紹介」に関する文が37件と多いのは当然であろう。
- 2) つぎに件数が高いのは、「4日本文化・日本社会理解」の18件であった。これは、広田小学校をはじめとして小学生から日本文化紹介を受けており、それらに関する感想で、特に「相撲」が地域の伝統的な風習として残っていることが取り上げられていた。
- 3) 3番目は、「教育(母国との比較)」13件で、日本の小中高校の教育システムに対する興味が底流にあり、自分自身の学びの反省や母国の教育の発展に対する希望が記されていて、留学生としての自覚が窺い知れる。
- 4) 興味深いのは、自分より年下への慈しみが窺い知れることである。何人であろうと、国の違いを超えて、年上の自分ができることを年下に教えようとする「人類

「愛」がキーワードとしてあげられるのは、異文化理解教室の醍醐味だろう。

I-2 日本人の感想文

I-2-1 宇久ワークショップの感想文

平成 19 年の「宇久ワークショップ」の感想文は下記の表にまとめられる。

表 4 「宇久ワークショップ」日本人の寄稿感想文数

a	b	c	d	e	f	g
小学校教員	中学校教員	高校教員	小学生	中学生	高校生	大学生
2	1	3	2	3	15 + α	3

I-2-2 九州文化学園高校の感想文

平成 26 年 12 月 10 日に実施した「九州文化学園高校」での異文化理解教室の感想文が 1 年 1 組 31 名、1 年 2 組 35 名分寄せられている。ご担当の原喜美枝先生のご指導によって書かれたものである。

本教室は、中国語・韓国語の学習をする前に、その国の文化や面白さを教え、学習の動機づけとなればという思いで、「ドラゴンボールで学ぶ中国語」「ONE PIECE で学ぶ韓国語」をテーマに実施された異文化理解教室だったので、中国語や韓国語の発音の難しさや教え方の楽しさに関する感想が多く、記載できるキーワードは少ないが、それでも実施ポイントにとって重要な感想が記されていた。

I-2-3 感想文のキーワード

感想文の内容について分析するにあたり、I-1-2 の「表 3 感想文のキーワード分類表」に沿って分類してみる。a~g は表 4 の所属、h は九州文化学園高校である。

表 5 感想文のキーワード分類表 (複数ワードあり)

NO	キーワード	所 属								計
		a	b	c	d	e	f	g	h	
1	教育 (母国との比較)									
2	日中・日韓の架け橋に									
3	留学生の国の文化紹介					1	11			12
4	日本文化・日本社会理解									
5	自民族の文化・歴史の再認識			1			1			2
6	授業以外の楽しさ (おしゃべり)						1			1
7	日本語力と発表の勉強									
8	発表者同士が仲良くなったこと									

9	自分を鍛えるチャンス									
10	日本人との違い									
11	文化の出会い	2								2
12	兄弟の愛・小学生の可愛さ									
13	小学生の発表のすばらしさ									
14	伝統文化のすばらしさ	1								1
15	実体験のすばらしさ	1	1	2	1	2	5			12
16	プリントなし・聞き取りにくい		1							1
17	留学生の熱意			1					1	2
18	世界中の人と仲良くなりたい				1					1
19	国際社会で生き抜くために					1				1
20	留学生の国が身近になった						1		5	6
21	教えること（補助）の楽しさ							3		3
22	留学生がおもしろい			2			1		38	41
	異文化の種類 ①韓国 ②台湾 ③香港 ④スリランカ ⑤ベトナム ⑥中国 ⑦モンゴル	①	② ③ ④	① ～ ⑦	①	① ～ ⑦	① ～ ⑦	⑤ ⑥ ⑦	① ⑥	

特に目を引く感想は下記のものであった。

・「文化の出会い」というキーワードは、「遊びであれ何であれ、このような文化交流を行うことで、互いの国を理解し認め合うことができるということ。理解が深まれば、世の中は平和になるはずである」と記されている。(先生 S. 0)

・「文化の出会い」というキーワードは、「世界のいろいろな国々の方々と交流できる、国際感覚の豊かな人間に成長するということは、とても大きなことであり、本事業はそのような点をサポートすることにもつながる、とても有意義なものだと思います」と記されている部分である。(先生 S. Y)

・「授業以外の楽しさ（おしゃべり）」とは、「小学生に遊びを教えていた人が話し方とか行動がものすごくおもしろくて（略）外国にもあんなにおもしろい人がいるという安心感が出てきて海外への関心が深まった。(高校生 K. S)

・「留学生の国が身近になった」とは、「ワークショップを終えてから、日常生活の中でも中国のことが気になるようになりました。私にとって、中国がもっと身近な国になったような気がします。(Y. T)

・「自民族の文化・歴史の再認識」とは、高校生にとっては、日本理解であるが、「日本に来て一番驚いたことを発表して（略）、自分では当たり前だと感じていることがあって、（略）改めて日本の文化というものを考えることができた」と記されている。(Y. T)

- ・「実体験のすばらしさ」とは、「モンゴルの飲物を飲みました。ミルクティーの香りがしていたのですが、飲んでみると塩の味がしてびっくりしました」と記されている。(R.S)
- ・〇〇先生への地元の温泉地に行ってみたいです。(A.S)
- ・〇〇先生の胸筋はむっきむっきであこがれでした。(I.M)
- ・日本人は中国にあまり良いイメージを持っていない人が多いけど、良いところもあるんだろうなと思った。
- ・私は正直、中国にいい印象を持っていませんでした。でも〇〇先生の話を知っていると、こんないい所があるんだと思いました。
- ・中国語に興味を持ちました。私たちは授業で英語を習っているけど、もしかしたら中国語のほうがわかりやすいかもと思いました。
- ・〇〇先生はすごくおもしろくてとてもたのしい授業だった。
- ・韓国の方は日本人が嫌いな人もいるので〇〇先生が日本に小学生のときに来て良い印象しかなかったと言われていて嬉しかったです。(S.F)

I—2—4 感想文の分析

表5からわかることを列挙し、分析とする。

- 1) 「22 留学生がおもしろい」が 38 件で一番高くなっている。これは九州文化学園高校での活動で、楽しい授業であったこと、それが、授業者のキャラクターに由来しているという感想である。
- 2) つぎに件数が高いのは、異文化理解教室の目的そのものである「3 留学生の国の文化紹介」に関する 12 件と「15 実体験のすばらしさ」の 12 件であった。
しかも「15 実体験のすばらしさ」は、小学校から高校までの先生方および生徒たちがもれなく記していて、民族衣装を着、異色な食文化である「種」「茶」などを食し、中国将棋などの異色なゲームをした実体験した楽しさが記されていた。
- 3) 興味深いのは、「20 留学生の国が身近になった」6 件である。先に記したが、「正直、いいイメージを持っていなかった」国からの留学生の話を知り、「いい所もある」という印象を抱いたり、「日本人が嫌いな人が多い」と思っていた国の留学生が「小学生のときからいい印象だった」と聞いたときの喜びが記されていて、生まれた時代の影響を受けざるを得ない人間の性を感じる感想であった。
- 4) 日本人の感想は、概して留学生が紹介する国の話よりも、留学生自身への興味が高い。

II これからの出前授業のポイント

この章では、異文化を紹介する留学生とそれを受ける日本人生徒の感想をもとに、双方にとって、さらに発展するためのポイントを多少考えてみたい。

留学生にとっては、プレゼンテーションの練習であり、自文化の紹介である本教室は、

日本語の未熟さを恥じる以外は、自分を鍛え、楽しめる場所となっていて、得るものは大きいことが、感想文から読み取ることができる。大部分の留学生は異文化理解教室に参加後、積極的になり、日本のことが好きになっている。

それに対して、異文化理解教室に対して受身的な生徒たちにとっては、留学生に比して、参加後の成果はそれほどの効果がないようである。広田小学校をはじめ、日本文化の紹介、もしくは留学生の国を調べて、それをプレゼンテーションしている小学生たちは、本学の留学生と同様の喜びを抱いている。

このようなことから、留学生に対する関心を高め、身近に感じさせる仕組みや、生徒一人ひとりが「実体験」を伴う活動をプログラミングすることが有効である。

たとえば下記のような活動が異文化理解教室で必要であろう。

＜モデル1＞留学生を身近に感じてもらう

・留学生が自己紹介するとき、「日本の好きなモノ」について話す。それらは、「人・食べ物・TV・マンガ・アニメ・芸能人・映画等々」であるが、必ずなぜ好きなのか、理由も加えて話す。

ex)僕は、子ども時代、日本のアニメにはまっていました。特に「ポケモン」が大好きで、母に叱られながらも、ポケモンのシールが入っている「パン」を食べもしないのに買っていました。皆さんも買ったことがありますか。僕は、ポケモンのキャラクターの種類が多いのがおもしろくてたまらなかつたんです。

＜モデル2＞実体験してもらう

・留学生の国の調味料を紹介する。国によって「味」や「匂い」が独特であることを実感してもらうために、「キムチ」「ヌックマム」「豆板醤」「ココナッツミルク」などを持参し、食してもらう。

ex)わたしの国では辛いものが大好きな人が多いです。たとえば、「キムチ」ですが、「唐辛子」が効いています。ちょっと召し上がってください。辛いでしょう。皆さんがよく知っている白菜のキムチでも辛さが違いますよ。また、白菜だけでなく「大根」や「なす」「きゅうり」「長ネギ」「にら」などのキムチもあります。

・留学生の国の民族衣装を着てもらう。国によって「形」や「布の種類」などが異なっていることを知ってもらう。「なぜこんなフォルムをしているんだと思いますか」等聞いてみて、その国の位置、気温、地形などを考えてもらう。

ex)わたしの国は多民族国家ですから、いろいろな民族衣装があります。わたしの民族は〇〇ですから、わたしが着ているこの衣装ですが、もっと寒いところに住んでいる民族はこのような衣装を着ます。

・留学生の国のゲームを一緒に行う。国によって異なったゲームのやり方を習い、政治・経済システム等々の違いもゲームの違いも長い伝統によって伝わってきていることを

感じてもらう。

ex)将棋をやってみましょう。日本の将棋では、負けて捕虜になった兵士はまた復活しますが、わたしの国ではもう、復活できません。大変厳しいですね。

12年の活動の成果は「ポイントを絞れ」というベクトルを出している。出前留学生のキャラクターを前面に出して、本人と日本のつながりに言及すること。それが、日本人生徒が留学生を身近に感じるきっかけになり、「親しみ」や「安心」のもとになるからである。そして、生徒たちに、留学生の自文化を実体験してもらうこと。モノがなければ、「ことば」でもできる。楽しいアニメのアフレコなどは生徒たちがもっとも喜ぶ内容になるだろう。

おわりに

2014年12月22日外交に関する世論調査（平成26年10月調査）が発表された。それによれば、下記³⁾のとおりである。

1. 日本と諸外国との関係

(3) 日本と中国

ア 中国に対する親近感

中国に親しみを感じるか聞いたところ、「親しみを感じる」とする者の割合が14.8%（「親しみを感じる」3.3%+「どちらかという親しみを感じる」11.4%）、「親しみを感じない」とする者の割合が83.1%（「どちらかという親しみを感じない」30.4%+「親しみを感じない」52.6%）となっている。

前回の調査結果（平成25年10月調査結果をいう）と比較して見ると、「親しみを感じる」（18.1%→14.8%）とする者の割合が低下している。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「親しみを感じる」とする者の割合は20歳代、40歳代で高くなっている。

(4) 日本と韓国

ア 韓国に対する親近感

韓国に親しみを感じるか聞いたところ、「親しみを感じる」とする者の割合が31.5%（「親しみを感じる」6.9%+「どちらかという親しみを感じる」24.6%）、「親しみを感じない」とする者の割合が66.4%（「どちらかという親しみを感じない」28.4%+「親しみを感じない」38.0%）となっている。

前回の調査結果（平成 25 年 10 月調査結果をいう）と比較して見ると、「親しみを感じる」（40.7%→31.5%）とする者の割合が低下し、「親しみを感じない」（58.0%→66.4%）とする者の割合が上昇している。

都市規模別に見ると、大きな差異は見られない。

性別に見ると、「親しみを感じる」とする者の割合は女性で、「親しみを感じない」とする者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

年齢別に見ると、「親しみを感じる」とする者の割合は 20 歳代、40 歳代、50 歳代で、「親しみを感じない」とする者の割合は 60 歳代、70 歳以上で、それぞれ高くなっている。

内閣府によれば、「外交に関する世論調査」は全国の市区町村に居住する満 20 以上の日本国籍を有する者 3000 人を対象に 10 月 16 日～26 日に実施されている。3000 人の調査結果に過ぎないと笑って済ませられないのは、年末には調査結果はニュースになり、さらに増幅し嫌悪のイメージが広がっていく傾向が懸念されるからである。近隣諸外国に対し、「親しみを感じる」しかないというほどの日本人自身の経験値を高める仕掛けづくりが急がれる。

如何にネット社会が進み、近隣国への嫌悪感が増幅されるような記事が満載されようが、自分が楽しく遊び、ともに笑いあった＜個人的な人＞に対して、嫌悪感は生まれないだろう。具体的な形、色、匂い、味、声、手触りの違いを身に染みて感じ、そこに「親しみのある人」が教えてくれたとき、単なる「嫌悪」に偏ってしまう人は少なくなる。それは、宇久島の小中高生、九州文化学園高校生や留学生の感想文にみてとれるところである。

異文化理解教室実施にあたっては、誰でもが教えられることであつたとしても、個別の留学生の個人的な話題を盛り込むことが重要なポイントであることが示された。特に日本（日本人）との関わり、きっかけなど、本人にとっては些細なことだと思われることこそが、心の壁に入り込む要素なのだということが明らかになったのである。

注

- 1) 「中国」には「台湾の地域文化」および「香港地域文化」を紹介した台湾と香港から留学してきている学生が含まれている。
- 2) 平成 18 年度は、佐世保市の「若人スポーツ・文化交流支援事業」の補助金をいただいて、10 月 16 日に「宇久高校異文化理解ワークショップ」と題して、佐世保市宇久島の小学校 2 校、中学校 1 校、高校 1 校の生徒たち 129 名の参加を得て、異文化理解教室を実施した際の感想である。
- 3) 内閣府大臣官房政府広報室 平成 26 年度 世論調査 より抜粋。
<http://survey.gov-online.go.jp/h26/index-h26.html>

参考文献

- ・中野はるみ (1997) 「アジアとの共生—留学生をめぐる—」『21世紀に生きる共生』学文社。
- ・中野はるみ (2006) 「異文化理解教育における留学生の役割」『長崎国際大学論叢』第6巻、長崎国際大学研究センター、pp.55-64。
- ・中野はるみ (2006) 『佐世保地域の異文化理解教育を支援するプログラムの開発』NIU 異文化理解研究室。
- ・中野はるみ (2007) 『異文化理解教育を支援するプログラムの開発—平成18年度—』NIU 異文化理解研究室。
- ・中野はるみ (2008) 『異文化理解教育を支援するプログラムの開発—平成19年度—』NIU 異文化理解研究室。
- ・中野はるみ (2009) 『異文化理解教育を支援するプログラムの開発—平成20年度—』NIU 異文化理解研究室。
- ・中野はるみ (2010) 『留学生と日本社会の研究—異文化理解教室をめぐる— (平成21年度)』NIU 異文化理解研究室。
- ・中野はるみ (2011) 『留学生と日本社会の研究—異文化理解教室をめぐる— (平成22年度)』NIU 異文化理解研究室。
- ・中野はるみ (2012) 『留学生と日本社会の研究—異文化理解教室をめぐる— (平成23年度)』NIU 異文化理解研究室。
- ・中野はるみ (2013) 『多文化社会と留学生—異文化理解教室をめぐる— (平成24年度)』NIU 異文化理解研究室。
- ・中野はるみ (2014) 『多文化社会と留学生—異文化理解教室をめぐる— (平成25年度)』NIU 異文化理解研究室。

学んでから遊ぶか、遊んでから学ぶか

滝 知則

はじめに

この論説では、「遊び」を国際交流活動の一環として取り入れることの意義と、交流活動のどの時点で「遊び」を行えるのかについて、ごく簡潔に論じる。

NIU 異文化理解教室（イブケン）の活動に参画しはじめたころの筆者には、「遊び」を軽視する傾向があったことを否定できない。日本の子どもたちと留学生たちが「遊び」を通じて交流するのは、もちろん悪いことではない。しかし、こうした子どもっぽいことよりも、何かもっと高級な交流があるのではないか。概ねこのような気持ちであったと思う。

ところがイブケンの回数を重ねるうちに、「遊び」に対する自分の見方に、徐々に変化が生じた。一回の交流の流れとして、まず教室で学習し、次に遊ぶという順番になることが多かった。このような流れの場合、教室での学習では、留学生側も受入校の生徒の側も、当然のことながら緊張している。真面目にノートをとってはいるが、満足度はどうなのだろうか懸念されることもあった。所定の時間が過ぎ、「やれやれ終わった、まじめにやったけど、少ししんどいよね」と留学生たちも日本の子どもたちも心の中で言っているように感じられる、いわば不完全燃焼の結果になってしまったことがあるのも事実である。

一方、最初体育館で遊んでから教室で学習、という順番で交流を進める場合もあった。こうした場合、留学生たちと受入校の子どもたちの間にあった目には見えない透明なバリアーのようなものが「融けた」と感じられた。そのあとの変化はめざましく、笑顔と自発的で活発なやりとりとが生まれていた。

一緒に遊ぶと透明なバリアーが「融ける」のはなぜだろう？遊ぶことで「融ける」のであれば、まず遊び、その次に教室で学習することは認められるのだろうか？以下では、これらについて、「遊び」を研究した文献のいくつかを紹介することを通じて、検討する。

1. 遊びはどのような意味で大切なのか？

(1) 19世紀までの「遊び」論

人間の「遊び」は、肯定的な評価と否定的な評価の双方を受けてきた。余暇と遊びの研究者である藺田(1996)によると、日本の歴史の中には遊びの肯定的な評価が存在する。古代の「遊び」には、祭祀に関わる行為や、民衆が集まって歌舞を楽しむことなどが含まれた。中世には『梁塵秘抄』、能、狂言、煉瓦、茶道など、上流階級と民衆がそれぞれ、芸能を楽しんだ。近世に入ると歌舞伎、俳句や川柳などの文芸、旅、相撲が楽しまれた。近代に至

り西欧の遊びが、学校教育（特に体育）の一環として導入された（藺田 pp. 8-15）。

外国ではどうであったか。古代には、肯定的な評価が存在した。中国の老荘思想は個人の内面的自由と結び付けて評価したし、インド仏教は悟りを開くことへの関わりで、遊びを評価したという。またプラトンは、遊ぶことが神聖なものに通じると考えた。

アリストテレスはプラトンの見方と異なり、まじめなものと遊びを区別し、後者は休息のためのものと考えた。古代ローマでは、遊びが人間形成に不可欠なものとしてとらえていたという。一方否定的な評価の例とであるが、キリスト教の考え方の中では、「遊び」は怠惰につながるゆえに悪いことと受け止められていた。怠惰は7つの大罪のうちの一つであり、人間の弱さを示すと、考えられたという（藺田 pp. 20-27）。

一方で、近世以降、遊びの肯定的な評価も存在する。子どもの「遊び」という活動に肯定的な意味を与えた例として、教育学者のフレーベル(1964[1826])の次のような評価がある。

「遊戯は、[幼児期]の段階の人間の最も純粋な精神的所産であり、同時に人間の生命全体の、人間およびすべての事物のなかに潜むところの内的なものや、秘められた自然の生命の、原型であり、模写である。それゆえ遊戯は、喜びや自由や満足や自己の内外の平安や世界との和合をうみだすのである」(p. 71)。

遊ぶことはその人自身の内面の安定と、周囲との人間関係の創造につながる、ということであろう。

(2) 20世紀の「遊び」論

周知のとおり、20世紀に入ってから、ホイジンガとカイヨワが「遊び」の肯定的な評価を行った。藺田(1996)の整理によると、まずホイジンガ(1973)は、文化の根底には遊びがあり、文化は遊びから作られたと主張する。つまり遊びは、人間の活動の数多くの領域で文化を創造する母体となったというのである。ホイジンガの遊び論でもう一つ大切なことは、『遊び』は『まじめ』に仕えるのではない。遊びはまじめよりも大きく、まじめの母体なのだ」と主張する点にある（藺田 pp. 75-6）。カイヨワ(1990)は、遊びの特徴として「競争」「偶然」「模擬」「眩暈」の4つのカテゴリーを設定し、これらの組み合わせを通じて、人間の遊びを分析した。そして、遊びの分析から出発した社会学を目指した（藺田 pp. 42-3）。人間の遊びの具体的な分析のためには、カイヨワの分析枠組みが、ホイジンガよりも有効であると言われる。しかし本論説の議論にとっては、ホイジンガの「遊びはまじめの母体」という考え方の示唆するものが多い。

「遊びはまじめの母体」とは、さまざま人間の活動における「まじめ」にあてはまる。次に、遊びが、他者との協同性を作ることに貢献すると考えられることを述べる。

心理学者の明和(2009)は、2点からなる遊びの定義を示した。その1番目は、遊びとは『「他者と行為を共有したい」という動機にもとづいておこなわれ、それ自体を目的とする(遊び以外の目的が想定しにくい)社会的行為』というものである(p. 138、2番目は後述)。

同様の指摘として、文化人類学者の青柳(1977)は、集団で行う遊びを、競争的な側面または協同的な側面の2つの強弱で特徴づけることを試みた。そのうえで、協同性の高い遊びでは、チーム仲間と協同することに重点がおかれ、勝敗の優先度は低い、と述べる。たとえば「はないちもんめ」は、協同性の高い遊びの一例である(p. 43)。

また美学者の西村(1989)が、鬼ごっこを遊んでいる鬼と逃亡者との関係について次のように述べたことも、上記の指摘と符合する。すなわち、「この[鬼と逃亡者の]共同存在、『われわれ』は、波のうきしずみに身をまかせる同調の遊動にあるのではない。それは、ひとつの、共通の目標にむけて共同で作業にあたる、企ての共同主体である」と述べる (p. 106)。

もちろん、人間の行う遊びの種類は多様であり、他者との協同性がほとんど無関係な「遊び」も存在する。しかし、イブケンで活動で行われるような子どもの遊びには、仲間との共同性が求められる。

つまり、遊びは「いいかげんな」活動ではない。遊びの中には、一緒に遊ぶ人たちとの協同性を求めるものがある。このような活動の際には、仲間とのコミュニケーション（言語・非言語とも）が必ず伴う。このことも、「遊びはまじめの母体」の一例ではないかと考えられる。

子どもが遊ぶときには、教科書を使わずノートもとらない。教師に指名されて発表することもない。しかし遊びを通じて、共同性を育むことができ、遊び仲間とのコミュニケーションを図ることができる。これらは、教室での学習とは違う面もあるが、大切な学習だと、筆者は考える。

2. 遊びと学習の順番をどうするか？

すでに取り上げた藺田(1996)は、次のようなことも述べている。学習と遊びの関係については、学習を遊びに優先させる、あるいは学習にも遊びにも同じウェイトを与える、という考え方が一般的である (pp. 81-2)。しかし、「仕事の報酬としての遊びから、仕事の前提としての遊び」という発想の転換は可能であり、こうした考え方が教育現場にも求められると主張する(p. 87)。

つまり遊びを優先させることは、子どもが人生の生き方を学ぼうとすることで効果があるというのである。

「人と人とが本当に理解しあうためには、遊びの共有が欠かせない要素である。冷静で合理的な理性的レベルのコミュニケーションの基底に、楽しく自由にふれあう感情レベルの『交歓』があって、人は初めて真の信頼を味わうことができるのではないか」 (p. 116)。

大人は仕事と仕事以外の人間関係のために「遊ぶ」。ゴルフやマージャンをしたり、女子会・呑み会などをしたりなどが、その例である。とすれば子どもたちが「学習のためにまず遊ぶ」ことがあってよいと、思われる。

また、「感情レベルの『交歓』」の存在を示すことのひとつが、笑顔と笑い顔であろう。明

和(2009)の遊びの定義の2番目は、『行為に参加している者たちに、「笑顔」が確認できる』ことだというものである (p. 138)。この点は、人類学者の島田 (2009)が次のように述べることと、符合する。島田はニホンザルの子どもたちがどのように遊ぶかについての調査結果を報告したが、その遊び方の特徴は、笑い声を立てることがなく、無音で進行することだという (p. 98)。

イブケンの活動の中で遊ぶとき、日本の子どもたちも留学生たちも、笑顔を見せ、声をあげて笑う。そのようなとき、両者は感情レベルの「交歓」を通じて「真の信頼」を味わっているのである。

3. 平和構築の手段の一つとしての文化交流

私たちのものの見方に、ナショナリズムは確かに影響している。「留学生の国の文化」とか「日本の文化」と言うとき、私たちはすでに、文化を国民単位でくくっている。これも言葉の広い意味で、ナショナリズムである。筆者は、「留学生の国の文化」や「日本の文化」というくくり方を、常にすべて問題視するものではない。その理由は、「国民」単位の文化の意識が、その人の自己アイデンティティの確認に貢献することがあるからである。しかし、一つの「国民」の中の文化の多様性と、複数の「国民」単位の文化間の類似点・共通点とを見過ごしてしまうことを避けるための配慮を、常に心掛けているつもりである。

さて、国際理解を通じて世界を平和にしよう、という言い方がしばしばなされる。ではどのようにして平和になりうるのだろうか？やや唐突の感は免れないが、紛争への対応における文化の役割に、少しだけ目を向けてみたい。

国際政治学者の福島(2012)は、包括的・多面的な平和構築において文化活動にどのような役割があるかを検討した。(なお平和構築とは、「紛争(再発)予防も含む包括的な活動であり、かつ和平合意の維持、治安の維持、人道支援、経済復興から法制度整備までさまざまな側面を持つ多面的な活動」と定義される(pp. 35-6))。

福島は、包括的平和構築の過程において、文化活動が4種類の役割を果たすと考える。そうした役割の一つが、「心の平和構築」である。そしてこれがさらに三つに分けられるのだが、そのうちの一つに「相互理解、融和、寛容性の育成、信頼醸成、和解」がある(pp. 45-60)。イブケンで行われる文化交流には、この意味での紛争予防の活動としての側面があると、筆者は考える。なおこれは、中・長期的な時間軸のうえでの話である。

さて、もう一度菌田の言葉を借りる。彼は、「遊びの中には、現実性の呪縛から人間の精神を解き放って、新しい世界を生み出す力が秘められている」(p. 17)とも言う。「現実性の呪縛」の具体例の一つとして、筆者は排他的なナショナリズムを考える。

異文化を持つ人たちと遊ぶことは、たとえ僅かな時間ではあっても、私たちがナショナリズム(文化の個別性)よりも人間の普遍性に目を向けさせる働きを持つ。「自分が話す言葉と最も親しんでいる文化は、今一緒に遊んでいる相手の人のものとは違う。でも、『この

人』と一緒に遊んでいて楽しい」。イブケンに参加する日本の子どもたちにも、留学生たちにも、このように感じている人たちが、少なからずいるはずである。

遊ぶことにより、感情レベルの「交歓」を通じた「真の信頼」を味わい、人間の普遍性を実感することができる。その次に、「留学生の国の文化」や「日本の文化」というそれぞれの文化の固有性に目を向けるならば、排他的なナショナリズムを避けられる可能性が期待される。

このことを踏まえると、「まず遊び、そのあとで学ぶ」という順序を踏むことには意義がある。国際交流の場であれば、なおのことそうである。

まとめ

「遊び」は「まじめ」の母体である。遊ぶことには、遊び相手とのコミュニケーションと協同が伴う。そして遊びを通じた相互理解や信頼醸成は、中・長期的な視点からの紛争予防の一部でありうる。これらを踏まえると、国際交流の一環としての異文化理解活動を、信頼醸成のためにまず遊び、その次に学習するという順番で進めることが、可能である。

排他的な気持ちを意図的に持っていない場合でも、私たちは広義のナショナリズムの枠組みで文化交流、すなわち外国の人たちとの交流を考える。私たちの知らないものを持っている人たちが相手であるから、交流の際に何らかの不安があるのは、当然である。それゆえにこそ、まず遊ぶことを通じて相互の信頼関係を築いたあとならば、教室での学習というコミュニケーションが楽しく自発的に、かつ活発に行われる可能性が、さらに高まると考えられる。

参考文献

- 青柳まちこ (1977) 「遊び」の文化人類学. 講談社現代新書.
- カイヨワ, ロジェ (多田・塚崎訳) (1990) 遊びと人間. 講談社学術文庫.
- 島田将喜 (2009) ニホンザルの遊びの民族誌 金華山・嵐山・幸島・志賀高原のコドモたち. 亀井伸孝編, 遊びの人類学ことはじめ—フィールドで出会った<子ども>たち, 昭和堂, pp. 81-133.
- 藪田碩哉 (1996) 遊びの文化論. 遊戯社.
- 西村清和 (1989) 遊びの現象学. 勁草書房.
- フレーベル (荒井武訳) (1964[1826]) 人間の教育 (上). 岩波文庫.
- 福島安紀子 (2012) 紛争と文化外交 平和構築を支える文化の力. 慶應義塾大学出版会.
- ホイジンガ (高橋英夫訳) (1973) ホモ・ルーデンス. 中公文庫.
- 明和政子 (2009) 人間らしい遊びとは? ヒトとチンパンジーの遊びにみる心の発達と深化. 亀井編, 遊びの人類学ことはじめ, pp. 135-164.

日本における留学生の資源性に関する一考察

小島大輔

1. はじめに

平成 24 年度より文部科学省により「留学生交流拠点整備事業」が開始された。これは、「大学等が、自治体や NPO、ボランティア団体等と連携し、地域の核となる国際交流拠点を整備して、留学生と日本人の学生・児童生徒及び地域住民等との交流を深めながら、地域一丸となって、生活面や就職、教育活動・地域活動への参画支援等の留学生支援を行う仕組みの各地での構築を支援」する取り組みである。これにより、「地域経済活性化、街作り、教育支援及び観光振興等に留学生の力を生かす街づくりの推進」が期待されている。

佐藤（2012）は、日本の各地留学生受入れの状況事例から、留学生の受入れ・支援の取り組みを地域別に類型化し、受入れ地域における活動の特徴を示した（図 1）。さらに、佐藤（2013）は、第 2, 3 次産業の規模が比較的小さく、過疎化、高齢化が進んだ地域への留学を「地方留学」とし、その意義と課題について考察している。

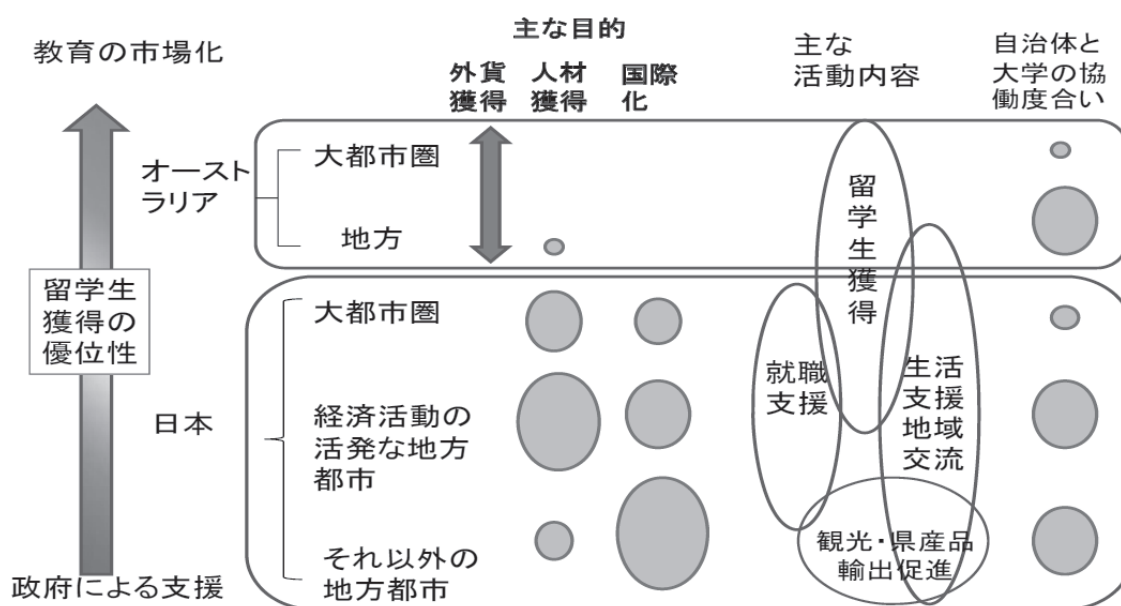


図 1 留学生受入れ・支援の取り組みの地域別類型化案
（佐藤（2012）より転載）

しかし、留学生の「異文化交流・相互理解」を目的とする場合、この図が当てはまらないことも指摘している（佐藤 2012）。また、この類型化では、「異文化交流・相互理解」に

における留学生の活用、すなわち留学生の資源性が考慮されていない。留学生が遍在することから地域によってその資源性は異なる。すなわち、留学生そのものが、現在の日本において果たす役割は地域によって一様ではない。地域の実情にあった留学生の支援・活用が望まれるため、留学生受入れの現状を明らかにする必要がある。

本稿では、日本における留学生受入れの現状から、留学生の資源性について考察する。

なお、本稿における留学生の定義は、いわゆる「留学ビザ」により、我が国の大学・大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）において教育を受ける外国人学生とする。

2. 日本における留学生の推移とその特徴

日本における留学生は2000年代前半から急激に増加した（図2）。2000年代半ばに一度停滞するが、その後さらに増加に転じた。その際、日本政府は、グローバル化を背景に2020年を目途に留学生の受け入れ30万人を目指す「留学生30万人計画」を2008年に打ち出した。以降、2010年をピークに留学生数は停滞の傾向にある。

留学生の出身国・地域よりこの時期の留学生の特徴をみると、中国や韓国といった東アジアを中心としたアジア国々・地域からの留学生が上位を占めている（表1）。一方、台湾は増加率からみると停滞傾向にある。このうち、ベトナムやネパールなどは急増していることがわかる。

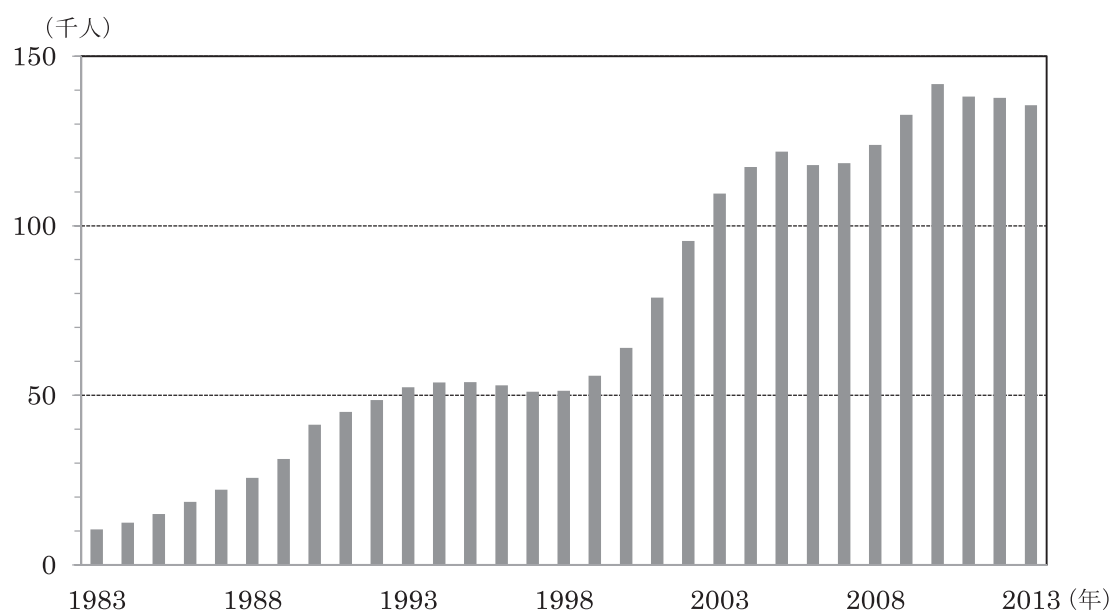


図2 日本における留学生数の推移（1983～2013年）

（日本学生支援機構資料より作成）

表 1 日本における出身国・地域別にみた留学生の推移（1998～2013年）

国(地域)名	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
中国	22,810	25,907	32,297	44,014	58,533	70,814	77,113	80,592	74,292	71,277	72,766	79,082	86,173	87,533	86,324	81,884
韓国	11,467	11,897	12,851	14,725	15,846	15,871	15,533	15,606	15,974	17,274	18,862	19,605	20,202	17,640	16,651	15,304
ベトナム	468	558	717	938	1,115	1,336	1,570	1,745	2,119	2,582	2,873	3,199	3,597	4,033	4,373	6,290
台湾	4,033	4,085	4,189	4,252	4,266	4,235	4,096	4,134	4,211	4,686	5,082	5,332	5,297	4,571	4,617	4,719
ネパール		283	307	344	307	344	462	617	998	1,309	1,476	1,628	1,829	2,016	2,451	3,188
インドネシア	1,140	1,220	1,348	1,388	1,441	1,479	1,451	1,488	1,553	1,596	1,791	1,996	2,190	2,162	2,276	2,410
タイ	1,059	1,107	1,245	1,411	1,504	1,641	1,665	1,734	1,734	2,090	2,203	2,360	2,429	2,396	2,167	2,383
マレーシア	2,040	2,005	1,856	1,803	1,885	2,002	2,010	2,114	2,156	2,146	2,271	2,395	2,465	2,417	2,319	2,293
アメリカ	949	1,073	1,044	1,141	1,217	1,310	1,456	1,646	1,790	1,805	2,024	2,230	2,348	1,456	2,133	2,083
ミャンマー		342	390	492	390	492	591	651	736	849	922	1,012	1,093	1,118	1,151	1,193
モンゴル		389	544	714	806	924	806	924	1,006	1,110	1,145	1,215	1,282	1,170	1,114	1,138
パングラデシュ	750	806	800	805	823	974	1,126	1,331	1,456	1,508	1,686	1,628	1,628	1,322	1,052	875
フランス		215	222	276	222	276	339	380	417	417	574	624	705	530	740	793
スリランカ		471	539	608	764	907	764	907	1,143	1,181	1,097	934	777	737	670	794
ドイツ		259	273	311	315	315	315	336	393	449	479	450	554	393	566	599
インド		235	243	264	327	410	525	410	525	471	544	543	546	573	541	560
フィリピン	434	497	477	490	483	508	525	544	542	538	527	528	524	498	497	507
サウジアラビア										159	184	253	300	336	413	472
イギリス		345	344	357	344	357	351	326	333	379	400	427	452	364	429	452
ロシア		323	331	360	366	366	366	346	334	337	315	304	358	331	333	339
カンボジア		187	232	261	283	298	283	298	278	283	287	300	333	326	311	338
オーストラリア		336	344	340	348	340	348	300	354	330	347	331	318	231	338	312
カナダ		219	233	243	256	279	256	279	286	307	319	345	358	286	302	308
ブラジル		342	347	353	330	330	330	338	342	316	331	336	324	272	272	275
スウェーデン									137	145	182	182	212	193	244	254
エジプト		253	233	255	237	255	237	237	251	283	320	329	300	235	213	229
ウズベキスタン		167	210	236	263	263	263	266	266	167	205	223	208	191	203	227
ラオス		150	137	135	135	135	135	135	135	135	135	135	135	135	135	135
シンガポール		178	200	217	227	227	227	235	236	229	216	218	235	229	213	218
イラン		114	133	168	157	157	157	171	171	169	171	167	167	167	167	167
トルコ		116	126	126	128	128	128	145	145	145	145	145	145	145	145	145
ブルガリア		121	134	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143	143
パキスタン		121	126	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131	131
ルーマニア																
メキシコ																
イタリア																
その他	6,148	6,600	7,187	2,679	2,789	3,130	3,331	3,461	3,604	3,788	3,824	4,204	4,351	4,082	4,409	4,656
計	51,298	55,755	64,011	78,812	95,550	109,508	117,302	121,429	117,927	116,719	123,829	132,665	141,327	138,075	137,756	135,519

(日本学生支援機構資料より作成)

3. 日本における留学生の分布とその推移

日本における留学生は、大都市圏に集中しており、この傾向はこの15年間大きな変化はない(図3)。特に、大都市圏周辺において顕著な増加がみられることから、この時期多くの外国人は日本の大都市を志向して留学がなされてきたといえる。

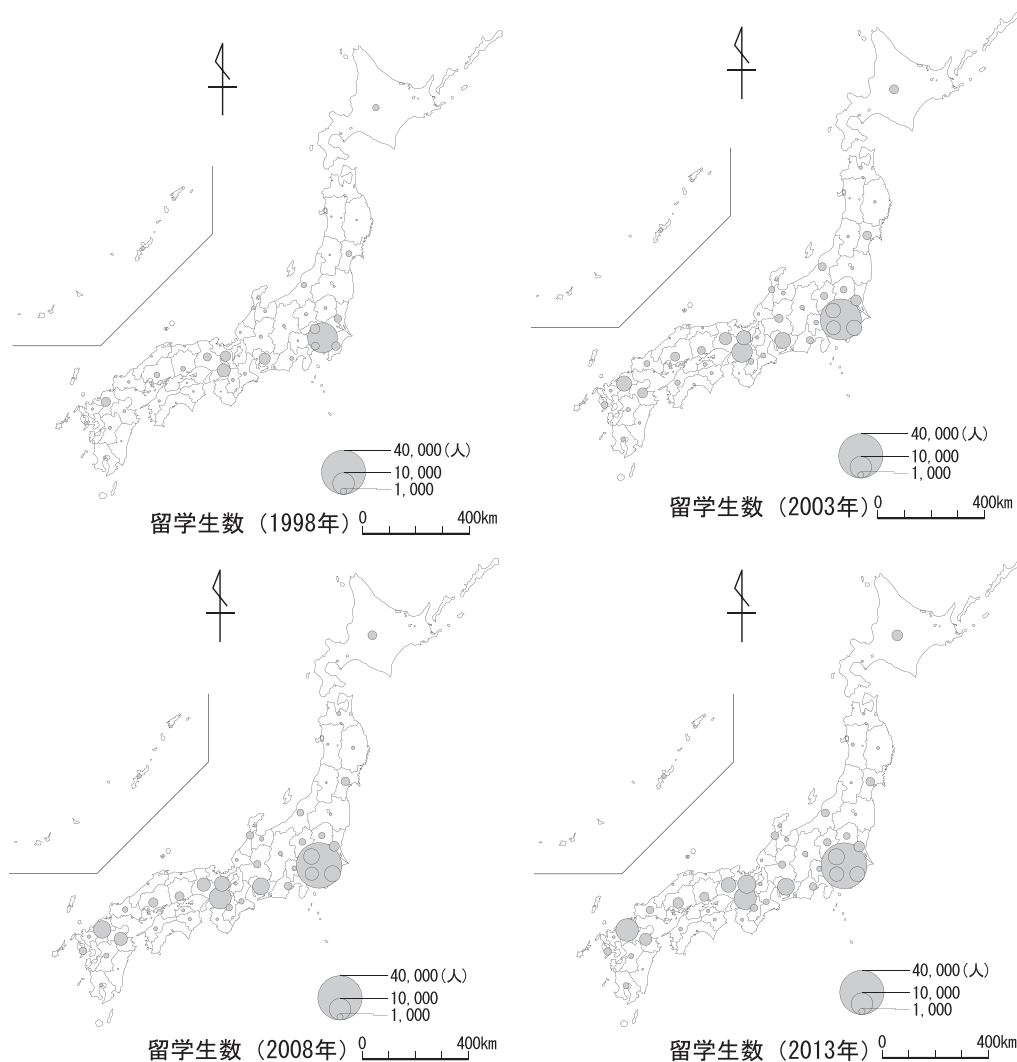


図3 日本における都道府県別留学生数(1998, 2003, 2008, 2013年)

(日本学生支援機構資料より作成)

続いて、各都道府県について留学生の受け入れ状況がどのように変化したかを検討する。留学生の増加率を全国的に俯瞰すると、この15年間ほぼすべての都道府県において留学生は増加している(図4)。特に、大都市以外の地域において増加率が高い。すなわち、この時期に留学生の受け入れ状況が大きく変わったのは「地方」であった。換言すると、佐藤(2013)

のいう「地方留学」の増大がこの時期における日本留学の特徴といえる。

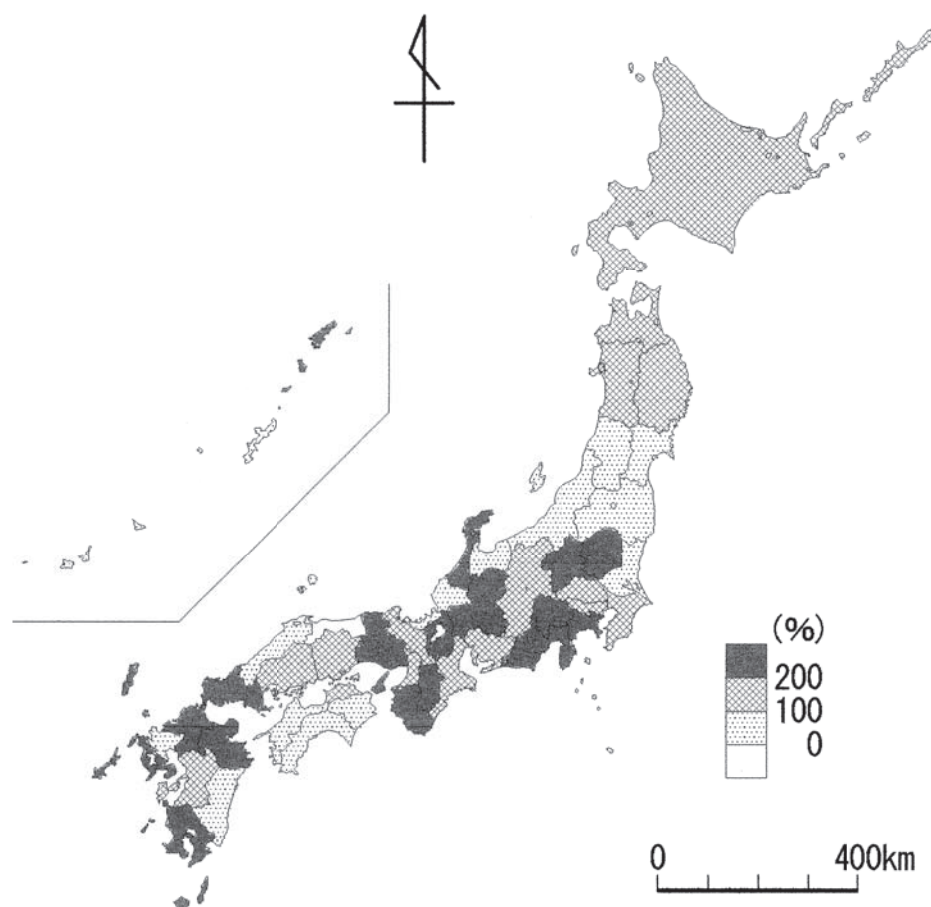


図4 日本における留学生の増加率（1998～2013年）

（日本学生支援機構資料より作成）

4. 日本における留学生の資源性—むすびにかえて—

大都市圏との関係位置、高等教育機関の立地、地域での取組みの有無など、日本では様々な要因によって留学生が遍在している。2000年代以前は大都市圏を中心に留学生の流入があったが、2000年代より大都市圏以外での「地方留学」が増大してきた。そのため、すでに多くの留学生を受入れている大都市圏の場合と、「地方」における留学生の資源性は異なるといえる。

以上のことから、留学生を地域資源として捉えた場合、今後のあり方として以下の3点を指摘することができる。

まず、「地方」において留学生と地域を結び付ける実践的な活動の推進が望まれる。そのためには、文部科学省の「留学生交流拠点整備事業」の成果の確認が必要である。特に「地方」における推進のあり方の検討についてすべきである。特に、「交流」という点に過度に重点を置く必要はなく、様々な活動を共同／協働で実践することによって、効果としての交流は達成しうると考えられる。このように考えることによって、地域における活動領域も広がるのではないだろうか。

次に、留学生にとっても学修の一環など有益・有意義な活動が望まれる。例えば、今後は大学の地域における実践的な活動として単位化するなども有効と考える。これにより、留学生は自らの学修効果の確認と、他の留学生の活動も知ることができるため、留学生によってより活動の効果は高まるといえる。

最後に、留学生が地域に愛着をもつことが重要である。佐藤（2012）は、留学生の地域に対する意識、住民の留学生に対する意識への配慮の必要性をあげ、留学生が地域に愛着を持って地域活性化に協力することの重要性を指摘した。まさしく、「異文化交流・相互理解」に関する活動は、地域住民と留学生との相互の理解・協力があって成立するものであり、活動の実施を優先した形骸化されたものであってはならないと考える。

【参考文献】

佐藤由利子（2012）：留学生受入れによる地域活性化の取組みと課題。ウェブマガジン「留学交流」, 15. <http://www.jasso.go.jp/about/documents/satoyuriko.pdf>

佐藤由利子（2013）：地方留学の利点と課題—大分, 秋田, 鳥取の留学生の交流状況と意識に関する調査から—。大学論集（広島大学高等教育研究開発センター）, 44, 287-302.

日本学生支援機構ホームページ：

<http://www.jasso.go.jp/>（2015年2月2日取得）

文部科学省ホームページ：

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/052/052_02/siryou/_icsFiles/afieldfile/2012/10/31/1327499_04.pdf（2015年2月17日取得）

外国人留学生在が企業に求められる能力の養成に関する一考察

谷口 佳菜子

1. はじめに

日本の外国人留学生在の数は、独立行政法人日本学生支援機構によると、2013年には135,519人となっており、彼らの出身地はアジアが圧倒的に多く、出身国・地域の上位5位は、1位中国、2位韓国、3位ベトナム、4位台湾、5位ネパールとなっている¹。

また、外国人留学生在の各教育機関の卒業後の進路についてみると、日本での就職を希望する者も少なくない。法務省入国管理局によれば、2012年において、「留学」の在留資格を有する外国人が日本の企業等への就職を目的として行った在留資格変更許可申請に対して、許可された人数は10,969人となった²。さらに、近年、日本企業も外国人採用の拡大傾向にあり、人材のグローバル化への動きがみられる（長峰 2013）。

そこで、本稿では既存の調査資料から、企業が採用時に外国人留学生在に求める能力を整理するとともに、先行研究や異文化理解教室での活動を踏まえて、それらの能力の養成が大学在学中に可能となる授業及び課外活動について考察したい。

2. 外国人留学生在が企業に求められる能力

本節では、卒業後に企業が外国人留学生对して期待している能力について既存の調査の結果を確認しながら検討していく。

株式会社クオリティ・オブ・ライフが行った調査によると、企業が外国人留学生在の採用時に重視することとして、1位「語学力（日本語）」（70.3%）、2位「コミュニケーション力」（60.4%）、3位「バイタリティ」（37.7%）が挙げられている。さらに、外国人留学生在が求められる日本語レベルについてみると、43.4%の企業がBJTビジネス日本語能力テスト³のJ1レベルを、27.4%の企業がJ2レベルを求めている。J1+レベルを

¹ この数値は、高等教育機関在籍者数である。

独立行政法人日本学生支援機構「平成25年度外国人留学生在在籍状況調査結果」
http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data13.pdf（2015年2月15日取得）

² 法務省入国管理局「平成24年における留学生在の日本企業等への就職状況について（広報資料）」
<http://www.moj.go.jp/content/000113259.pdf>（2015年2月15日取得）

³ BJTビジネス日本語能力テストは、ビジネス場面で必要とされる日本語コミュニケーション能力を測定するテストであり、800点満点で評価される。BJT400点以上が日本語能力試験2級以上と同レベルとされ、入国審査における留学の資格認定の資料として

希望する企業は 13.7%である。BJT ビジネス日本語能力テストの J2 レベルは、「限られたビジネス場面で日本語による適切なコミュニケーション能力がある（日本語能力試験 1 級相当）」、J1 レベルは、「幅広いビジネス場面で日本語による適切なコミュニケーション能力がある」、J1+レベルは、「どのようなビジネス場面でも日本語による十分なコミュニケーション能力がある」となっている。

次に、株式会社ディスコが行った調査をみると、同社の調査では外国人留学生に求める資質が文系と理系に分けて明らかにされており、文系・理系いずれも、1 位「日本語力」、2 位「異文化対応力」、3 位「コミュニケーション力」となっている。外国人留学生に期待する日本語力は、文系では 63.4%の企業がビジネスレベルを、12.5%の企業がネイティブレベルを求めており、理系では 66.0%の企業がビジネスレベルを、7.5%の企業がネイティブレベルを求めている。文系・理系ともに高い日本語のレベルを期待していることがわかる。

さらに、独立行政法人労働政策研究・研修機構の調査では、高度外国人材に期待する役割について明らかにされている。ここでいう高度外国人材とは、日本国内および海外の大学・大学院以上の最終学歴を有する者、またはそれに相当する実績をあげている外国人や、在留資格「研究（企業内の研究職）」「技術」「人文知識・国際業務」「投資・経営」「法律・会計業務」「企業内転勤」の外国人を指している。同調査によると、高度外国人材に期待する役割について、高度外国人材の採用実績がある企業では、「日本人社員と同様に考えている」とした回答が 56.6%と最も多く、次に、「高度な技術・技能を活かす専門人材（研究者、技術者など）」が 32.0%となり、続いて「海外との取引を担う専門人材（海外営業など）」が 27.5%となった⁴。さらに、同調査では、高度外国人材が仕事をする上で必要な日本語のレベルを具体的に示しており、52.4%の企業が「報告書やビジネスレターなどの文書を日本語で作成できるレベル」を求めており、20.1%の企業が「報告書やビジネスレターを作成できるほどではないが、日本語でビジネス上のやりとりができるレベル」、さらに 18.8%の企業が「日本語で日常会話ができるレベル」を求めている。

以上のように、日本での就職を行う外国人留学生には高い日本語レベルが求められていることがわかる。外国人留学生には大学在学中に日本語能力のさらなる向上が不可欠となる。さらに、新卒の日本人学生にも求められることであるが、コミュニケーション力もかなり重視されている。これに加えて、外国人留学生には日本企業の文化や慣習への理解も必要とされているようだ。

も活用されている。合格または不合格という結果ではなく、点数制で採点され、6 段階のレベルで評価される。J1+が 600～800 点、J1 が 530～599 点、J2 が 420～529 点、J3 が 320～419 点、J4 が 200～319 点、J5 が 0～199 点である。

BJT ビジネス日本語能力テスト ホームページ <http://www.kanken.or.jp/bjt/>（2015 年 2 月 15 日取得）

⁴ 2 つまでの多重回答である。

3. 企業の求める能力を外国人留学生在が身に付ける機会

前節に示したように、企業は、外国人留学生の採用時に、語学力（日本語）やコミュニケーション力を重視していることが明らかとなった。外国人留学生は大学在学中にこれらの能力を身に付けることが求められる。本節では、企業が外国人留学生に求める能力や資質を外国人留学生在が大学在学中に身に付ける機会について考察する。

企業が教育機関（大学等）に求める外国人留学生教育についてみれば、株式会社クオリティ・オブ・ライフが行った調査により、上位5位は、1位「日本語能力（日常会話・読み書き）」（63.9%）、2位「日本企業文化への理解を促す教育」（60.2%）、3位「日本企業の基本的なビジネスマナー教育」（55.4%）、4位「ビジネスシーンで使用する高度な日本語教育」（45.2%）、5位「社会人基礎力の育成」（41.0%）となっている。

基礎的な日本語能力の向上については、大学入学後も語学力を上達させるような語学（日本語）科目が重要となる。神谷（2010）が事例で挙げているように、日本語教育でビジネス日本語の導入を行うことに加え、ビジネスに適した日本語表現を外部講師から学ぶといった内容を盛り込むことも効果的だろう。

また、近年、大学でもキャリア教育が重視されていることもあり、講義で学んだ内容をいかに実践的に活用するかも重要である。ビジネスに特化した日本語能力や日本の企業文化、ビジネスマナー等を身に付けるには、就職支援等に加え、アルバイトやインターンシップ等を行うことも有効である。実際に職場で働くという経験を通じて日本の企業の文化や慣習、ビジネスマナーなどを学び、身に付けることが可能となるであろう。

次に、コミュニケーション力についてみると、外国人留学生の中には、大学の授業の中でも課外活動でも、同じ出身国・地域からの留学生同士だけで過ごす者もおり、日本人との接触が比較的多い外国人留学生でも、大学内では日本人の学生や教職員と、サークルやアルバイト先等では同世代以上の日本人との接触に限られるようである。

これまでに日本の小・中・高の生徒たちに出前授業を行う異文化理解教室に参加した外国人留学生によれば、出前授業に参加するまで日本人の子供たちとの交流はほとんどなかったようである。大学在学中に幅広い世代との交流を行うことも、日本の文化や慣習について理解を深めることにつながるだろう。さらに、異文化交流の活動を通じて、自分の日本語能力のレベルを実感し一層勉学意欲がわくこともある⁵。また、異文化交流の活動は、外国人留学生にとって、一度に多くの日本人に自分の出身国・地域への理

⁵ 異文化理解教室に参加した外国人留学生の中には、出身地の紹介について、発表の練習を行うとき、自分の日本語の発音や表現に間違いがないか日本人の教員に何度も確認する者も多い。特に初めて発表を行う外国人留学生に顕著である。発表後は外国人留学生は自分の日本語が通じたという自信が付き、次回は発表がより上手くできるように努力するといった様子がみられる。

解を深めてもらう貴重な機会にもなる。

4. むすびにかえて

以上のように、既存の調査結果によれば、外国人留学生在が企業から求められる能力は、日本語能力とコミュニケーション力が重要であるということがわかった。

このような結果から、大学としては、外国人留学生在が企業に求められる能力を身に付けられるように、語学（日本語）やキャリアに関する科目に加え、それらの実践の場を提供していくこと、さらに、志甫（2012）が指摘するように、日本人学生が外国人留学生在と共に学び、議論し、作業する経験を積む場を提供することが必要である。近年のグローバル人材の採用に鑑みて、こうした場を設けることは、異文化を理解し、協働することの重要性を学ぶことができるため、日本人学生にとっても必要なことであるといえる。

【参考文献】

- 神谷順子（2010）：「日本における外国人留学生在の就業に関する研究：大学・企業・行政との連携による就職支援の効果」『北海学園大学学園論集』143号、67-91頁。
- 志甫 啓（2012）：「外国人留学生在の日本における就職・採用の動向と大学による支援の意義」『関西学院大学高等教育研究』関西学院大学高等教育推進センター紀要委員会、2号、15-33頁。
- 長峰記夫（2013）：「外国人留学生在の日本企業への就職事情 歴史と現在」『人間環境論集』法政大学人間環境学会、92-59頁。
- 株式会社クオリティ・オブ・ライフ「平成24年度アジア人材資金構想プロジェクトサポートセンター事業 日本企業における高度外国人材の採用・活用に関する調査（報告書）」
http://www.meti.go.jp/policy/asia_jinzai_shikin/surveydata_2012.pdf（2015年2月15日取得）
- 株式会社ディスコ キャリアリサーチコラム「「外国人社員の採用に関する企業調査」アンケート結果-2013年9月調査」<http://www.disc.co.jp/column/?p=1285>（2015年2月15日取得）
- 戦略的な留学生在交流の推進に関する検討会「世界の成長を取り込むための外国人留学生在の受入れ戦略（報告書）」（平成25年12月18日）
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/_icsFiles/fieldfile/2013/12/24/1342726_2.pdf（2015年2月15日取得）
- 独立行政法人日本学生支援機構「平成25年度外国人留学生在在籍状況調査について-留学生在受入れの概況-」

http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data13_brief.pdf (2015年2月15日取得)

独立行政法人労働政策研究・研修機構 (2013) 「企業における高度外国人材の受入れと活用に関する調査」 JILPT 調査シリーズ No.110

<http://www.jil.go.jp/institute/research/2013/documents/0110.pdf> (2015年2月15日取得)

平成 26 年度活動報告

国際交流の草分けクラブとの交流

中野はるみ

1、実施概要

日時：2014年5月8日（木）10:40～12:10

対象：佐世保インターナショナルレディースクラブの80名の方々

テーマ：お互いの文化を尊重して、佐世保で多文化共生を楽しもう

参加留学生：＜韓国＞・朴 成一さん・李 炤羅さん

＜ミャンマー＞・Phyu hnin Waiさん

＜中国＞・曲 芮さん・王 嘉さん・干 洋さん・邵 帥さん

＜香港＞・覃 朝欣さん・陳惠儀さん

＜ネパール＞・サムジャナ・ネパーリさん

＜ベトナム＞・Tran Gucc Toanさん・Bui Hui Phuongさん

＜フィリピン＞・ECHALUCE PATRICIA CLAUDINE CARINOさん

・PANGILINAN JUN EVAN PANGANIBANさん

計14名

場所：本学2号棟2101教室

コアメンバー（先生方）：中野、滝、谷口、田渕（協力者）

2、経過

佐世保には長い国際交流の歴史がある。特に戦後、アメリカ軍の基地が置かれてから、さまざまな交流が民間でも実施されてきたようである。その中の1つが、佐世保インターナショナルレディースクラブ（以後SILC）である。

4月8日、SILCの吉田和代さんという方から電話がかかった。丁寧なお電話でNIU異文化理解教室をインターネットで知り、ぜひ留学生と交流したいということであった。その後、4月13日にはFAXで、4月17日には山住恵子会長と吉田さんのお2人で来校され、翌日18日には、5名の皆さんで訪問され、民族衣装を着られ、メンバーの方々に合う衣装を選ばれた。

当初より、SILCの5月の例会時に「ばらグループ」主催で交流したいというご希望であったので、詳細な打ち合わせを行って、当日に授業のない留学生を中心に、できるだけ多くの国籍の留学生が参加できるようプログラムを組んだ。

山住会長や吉田さんとの打ち合わせでは、テーマは、「多文化共生」と決まった。21世紀の現代社会は、政治や経済、社会問題はグローバルな展開を余儀なくされている。問題の所在を明確に捉えるためには、諸外国の人間が共に集う機会を多数作り出す必要性に迫られているといえよう。そのような考えに賛同した私たちは、できるだけ多くの国や地方から佐世保の地が集ってきている留学生に参加してもらうようにした。

そして、異文化理解研究室のコアメンバーである先生方には、下記の添付資料を4月17日に送り、コアメンバーミーティングを実施し、準備を行った。

2014. 4. 17(木)

NIU異文化理解教室 for 佐世保インターナショナルレディーズクラブ (案)

期日：2014年5月8日(木)

場所：長崎国際大学2101教室

テーマ：お互いの文化を尊重して、佐世保で多文化共生を楽しもう。

—留学生の出身国の民族衣装と食べ物紹介—

参加者：佐世保インターナショナルレディーズクラブ員 約80名 と 留学生

留学生：6か国1地域(中国、香港、韓国、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、ネパール)
12名

担当：長崎国際大学；中野はるみ・滝知則(司会)・小島大輔(写真)・谷口佳菜子(留学生対応)
佐世保インターナショナルレディーズクラブ；山住恵子様、吉田和代様 他

プログラム

10:30 参加者を教室へ誘導

10:40 NIU異文化理解教室開始 司会：滝

- 1) はじめのことば
- 2) 参加者の紹介 (2分)
- 3) 佐世保インターナショナルレディーズクラブ代表 あいさつ (2分)
- 4) 異文化理解教室代表 あいさつ (2分)

10:50 民族衣装の紹介と食べ物の紹介各国10分以内

留学生は民族服を着て登場する。どこの国か質問する。衣装を簡単に紹介し、スライドで自分の国の特徴ある食べ物を紹介する。

- 1) 中国・香港 チャイナ服 と 中華料理
- 2) 韓国 チマチョゴリ と 韓国料理
- 3) フィリピン バロン・タガログ と フィリピン料理
- 4) ベトナム アオザイ と ベトナム料理
- 5) ミャンマー ロンジー と ビルマ料理
- 6) ネパール サリー と ネパール料理

11:55 みんなで歌を歌いましょう！みんなが知っているメロディーを各国語で歌う。

プリント用意 「〇〇〇〇」

12:00 NIU異文化理解教室終了

おわりのことば

12:15 教室の設営終了

当日のようすは、下記の写真が如実に物語ってくれる。テレビ放映局の撮影もあった。



<韓国のクイズ：アニメキャラの動物はなあに？A：とり B：かえる>



<ミャンマーのクイズ：ミャンマーの国旗はさあ、どちらでしょう？1か2か？>



<香港のクイズ:>

>



<ネパールのクイズ: どちらの民族衣装が南の方のでしょうか? 右か左か? >



<ベトナムのクイズ:>



<フィリピンのクイズ：フィリピンにはいくつ島があるでしょうか？AかBか？>

留学生のプレゼンテーションはクイズ形式にしたため、参加者もスライドに釘付けになって、クイズの正答に一喜一憂され、若い大学生との交流時間は、楽しい90分間であった。そのような、次ページの「ばらグループ」の報告にあるとおりであった。感謝。

2014.05.08 例会

～多文化共生に向けて 異文化を体験してみましよう～

当番 ばらグループ

場所：長崎国際大学
人間社会学部 国際観光学科
中野はるみ先生 滝智則先生
留学生 他学生多数



昼食：ホテル ローレイ 2F



いのちを見つめる月間の異文化理解教室

中野はるみ

期日：平成26年6月26日（木）9:00～11:30 給食

対象：佐世保市立宮小学校 異文化理解教室を選んだ7名の小学生

留学生：＜フィリピン＞・ECHALUCE PATRICIA CLAUDINE CARINOさん

・PANGILINAN JUN EVAN PANGANIBANさん

＜ミャンマー＞Phyu hnin Waiさん

＜ベトナム＞・BUI HUY PHUONGさん

・NGUYEN TAN DUYさん

＜中国＞・付 晓丹さん

＜韓国＞・尹 植さん

計7名

引率：中野はるみ

宮小学校でのNIU異文化理解教室は2度目になる。本学の留学生はそれ以前よりゼミ活動で訪れていて、宮小の子どもたちとは交流を続けてきている。

今回も佐世保市の教育の柱にしてきた「いのちを見つめる月間」の「ふれあい教室」という取組で「ゲストティーチャー」として異文化理解教室を実施した。他のゲストティーチャーは、地域の方々が先生として招かれていて、「郷土料理」「紙粘土」「ビーズ作り」「小物作り」「ペタンク」「昔遊び」「フラワーアレンジメント」などが教えられ、一緒に手作りの作品を作りながら、地域の方々とふれあいを大切に、互いのいのちを見つめなおす取組の一環であった。

5か国から留学してきている7名の学生は、自分の国の小学生のようすを中心に発表を組み立てた。



まず、フィリピンの小学生たちのようすを話してくれたパトリシアさんとエバンさんは首都であるマニラ市の出身で都会育ちの留学生である。小学生とのふれあいは初めてで、しかも日本人の前で話すのも初めてとあり、緊張していたが、自分たちの小学生時代を懐かしむように、ビデオを放映しながらわかりやすくプレゼンテーションしてくれた。

フィリピンは日本より赤道に近いので、朝が早く（5:30）には起きて、7:00からの授業に備えることや、フィリピンの小学生は制服を着ていること、学校の中には売店があり、休み時間には「おやつ」が買えることなど、日本との違いを話してくれた。



つぎに、ミャンマーの小学生のようすを話してくれたのは、ピュウニンウィーさんだが、ピュウさんは異文化理解教室の活動には多数、参加してくれていて流暢な日本語で分かりやすく話してくれた。

ミャンマーは敬虔な仏教国で、手を前に合わせて挨拶をするという生活習慣から始め、自分や家族の小学生時代の写真を見せて、小学生教育事情を話した。ミャンマーの文字のユニークさに、話を聞いている小学生は目を白黒、世界の広さを感じさせてくれた。



3番目は、ベトナムのフォンさんとズイさんが、ベトナムの小学生についてスライドを見せながら話を進めてくれた。フォンさんは昨年も参加したので、小学生の中には顔を覚えている男子もいて、互いに嬉しそうであった。

ベトナムの小学生の1時間の授業は、なんと90分間であること、休み時間が30分もあることなど、驚かされるが多かった。スポーツが好きで特にサッカーに人気が集中しているらしかった。



4番目は、中国の付晓丹さんであった。付さんは、中国の小学生のスケジュールを教え、加えて、中国の小学生が毎日するという「目の体操」を教えてくれた。確かに目の疲れに効きそうな体操で、皆で一緒に両手を動かした。中国は一人っ子政策の影響もあり英才教育で、小学生も疲れやすいのか……………。



最後に、韓国の尹植さんが、韓国の小学生のようすを紹介してくれた。韓国も小さいころから勉強、勉強と忙しいようである。しかし、日本のアニメが大好きなど、日本人小学生と同じような生活もあるらしい。楽しい発表であった。

留学生たちの文化を受け入れる国際交流(佐世保市立広田小学校)

滝 知則

実施期日

(第1回) 10月15日、(第2回) 11月28日、(第3回) 12月12日

対象学年と生徒数

6年生5クラス 163名

参加した留学生メンバー

(第1回) ハン・アルム(韓国)、サムジャナ・ネパーリ(ネパール)、黄皓明、陳嘉晞、麥雅詩(香港)

(第2回) サムジャナ・ネパーリ(ネパール)、レ・テ・ジズィ、ツァン・ヒュ・ドアン(ベトナム)、パンギリナン・ジュン・エバン、エチャルヤ・パトリシア・クラウデン(フィリピン)

(第3回) 陳慧妮(ウィニー)、陳キエン(レネー)、李嘉雯(ジェシー)(香港)

交流の内容

第1回は、①留学生の国の言葉で、あいさつとジャンケンのしかたを教わる、②ジャンケン勝ち抜きゲームと伝達ゲームで仲良くなる、③留学生の国の文化の紹介の順で行われた。



広田小6年生とジャンケン勝ち抜きゲームをするネパーリさん



卒業アルバム用の集合写真に入れてもらったヘイリーさん

第2回は、①留学生の国の文化を教わる、②留学生の国の料理づくりを体験する（ネパールのモモ、フィリピンのルンピア、ベトナムのココナッツ餅）、③留学生の国の特徴・言葉・子どもの生活を教わる、の3つが（②と③は2つの場所に分かれ同時並行で）行われた。



フィリピンの特徴・言葉と子どもの生活を説明するパトリシアさんとエバン君



ココナッツ餅の作り方を教えるドアン君



「広っ子フェスティバル」の練習を見守るジズィ君とパトリシアさん

第3回は、「広っ子フェスティバル2014」の日に行われた。広田小の6年生は、第1回と第2回の教室で学習した内容を、「われら地球人」の中で発表した。本学の留学生たちは「ふれあい広場」のコーナーで、普段の異文化交流の様子を、来場者の方たちに紹介した。

留学生メンバーの感想

- ・イブケンを通じて知り合いになったので、街を歩いていると広田小6年生の人たちがあいさつをしてくれる。
- ・日本の小学校のしくみが興味深い（特に、プールがあること）。先にゲームをして、次に教室で交流したのが良かった。

- ・「みんなで一緒にゲームを遊んだあと、自分の国の事情を説明するほうがいいと思います。まず、ゲームを通じて仲良くなれたあと、話しやすいかもしれません」
- ・日本のゲームのルールを親切に教えてもらった。
- ・学校でペットを飼っていることが興味深かった。6年生の質問を、先生方が分かりやすく言い換えてくださったのが、ありがたかった。

考察

第2回の交流で、広っ子フェスティバルの準備のお手伝いをしたことについて述べます。この日留学生たちはまず、自分たちの文化を広田小6年生に伝えました。次に広田小6年生が、フェスティバルに向け、教わったばかりのことを第三者に伝えるための練習をしました。留学生たちはその練習の様子を見守りました。

その練習を見ていて、筆者の印象に残ったのは、習ったばかりのベトナム語でじゃんけんをしたり、ベトナム語のあいさつを正確に覚えたりしている人たちのいたことです。またフィリピンのクリスマスするとき、自分たちだけでなく多くの人たちの幸せを祈ることも、正確に理解していました。

広田小6年生の人たちがこのようなことをしてくれたので、留学生たちは、それまでの準備に注いだ努力に加え、自分たちと自分たちの文化も評価されたと感じたことでしょう。自分の存在が認められることは、留学生たちの居場所が広田にもできたということです。居場所のできた外国のお兄さんたちとお姉さんたちは、広田小のみなさんと、これからも仲良くすると思います。広田小6年生の皆さんは、このように大切な国際交流をしているのです。

謝辞

今年も3回にわたり交流の機会を与えていただきました。機会が多いおかげで、何度も広田小にうかがった留学生もいれば、より多くの留学生たちが広田小に行くことができました。また、まず遊んで仲良くなってから、教室で学習するという順序で進めていただきました。

篠崎信彦校長先生をはじめ、6年生ご担当の先生方には、この交流の実現のためにご尽力くださいました。本学の留学生たちが日本人と日本文化について理解を深めることができるのも、こうしたお力のおかげです。改めて、深くお礼を申し上げます。次年度もまた、このように交流できることを望んでおります。

波佐見町立東小学校での出前授業

小島大輔

1. 出前実施概要

対象：波佐見町立東小学校 6年生、23名

日時：2014年11月7日（金）（第1回）、2014年12月4日（木）（第2回）

参加留学生：（第1回） グエン・タン・トゥン（国際観光学科3年生・ベトナム）
 バク・シエイ（国際観光学科3年生・香港）
 リ・ヒュウラム（国際観光学科3年生・香港）
 ネパーリ・サムジャナ（国際観光学科2年生・ネパール）
 （第2回） コウ・セイセイ（国際観光学科4年生・中国）
 シン・コウリョウ（国際観光学科3年生・香港）
 リ・ヒュウラム（国際観光学科3年生・香港）

担当教員：小島大輔（企画・調整・引率）、Brendan Van Deusen（企画・引率）

活動内容：（第1回）留学生によるベトナム、香港、ネパールの文化、世界の通貨の紹介

留学生による母国の文化の紹介を通して小学生と交流した。交流会後、日本の給食を体験し、さらに昼休みの遊びを通じて交流を深めた。

（第2回）東小学校6年生より日本の文化を学ぶ

小学生による日本の文化の紹介・実践を通して、小学生との交流を深めた。第1回と同様に、交流会後日本の給食を体験し、さらに昼休みの遊びを通じて交流を深めた。

2. 出前報告

波佐見町立東小学校との交流は、二度実施された。二度共に交流会開始前に名刺渡しのアイスブレイキングがあり、交流会後は給食を食べながらの交流も実施した。さらに、昼休みには小学生と遊びを通して交流した。交流会の内容については、第1回では留学生が母国の文化を紹介し、第2回では小学生より日本の文化が紹介された。

まず、第1回（11月7日）の交流では、小人数の小学生グループに対してローテーションして交流する方法がとられた。留学生およびVan Deusen助教は小学生に対して以下のことを紹介した。

- ①世界のお金、お土産の紹介（Van Deusen助教）
- ②ベトナムの歴史、文化の特徴（グエン・タン・トゥン）

③香港の人気観光地の紹介（バク・シエイ、リ・ヒュウラム）

④ネパールの観光地の紹介（ネパーリ・サムジャナ）

①では、身近なものの値段に紙幣がどれだけ必要かなどの比較で、各国におけるお金の価値を気付かせていた。

②では、留学生が自作のVTRを用いて文化を紹介した。言語が英語であり、小学生がどれほど理解できたのかは心配だったが、抵抗なく見入っていた。VTR後クイズで確認の様子から、十分に理解できており驚いた。

③では、初めての出前授業で開始直前は緊張していたが、タブレットを用いて効果的に準備したスライドを提示し、うまく伝わったようだった。

④では、スマートフォンを使用して写真を提示していたが、生徒との距離が近くなったようだった。

第2回の交流（12月4日）では、東小学校の6年生が、留学生に対して日本の文化を紹介した。日本の伝統的な文化から現代のものまで幅広い紹介ブースが構成されており、留学生にとって有意義な学びになった。紹介中には、遊びの体験、クイズや浴衣の着付け体験などもあり、留学生は楽しく学ぶことができた。

第1回、第2回共に、留学生と小学生共に非常に楽しく交流ができていたといえる。

3. まとめ

今年度の出前授業も、昨年に引き続き主担当として担当させていただいた。そこで、昨年と併せた2年間の出前授業に関して、留学生の感想などから引率者として見出した点を整理しておく。

まず、留学生は、両年共に交流を通して日本の小学生に対して好意的な印象を持ったことがわかった。また、自らの紹介に積極的に聞き入ってくれたこと、素直な反応が返ってくることなどがやりがいにつながっていることもわかった。

加えて、異文化理解教室の活動は、留学生にとって日本文化の理解に役立つだけでなく、留学生が自身の日本語能力に自信をつけるよい機会であった。母国語ではない日本語で、本交流会に参加を繰り返すうちに、自信をもってプレゼンができるようになったようである。実際、昨年も参加していた留学生は、その時の交流会をふりかえって自身の成長を確認していた。以上、「異文化理解教室」は、本学留学生にとっても成長し、それを確認できるよい機会であることが実感できた。

ご協力いただいた先生方には感謝を申し上げたい。

最後に、交流会には、初めての学生と慣れている学生とを混合させたメンバーで臨んだ。これまで、先輩の留学生が培ったノウハウを引き継ぐ機会は交流会のみだった。今後、留学生にとって有意義で、小学校の要望に沿う交流会を実施するためには、留学生が事前に自主的にノウハウを蓄積する組織・グループなどを編成する必要があると考える。

4. 交流会の様子

<第1回>



アイスブレイキングの名刺渡し



サムジャナさんの紹介するネパールの写真に見入る様子



香港の水族館を紹介するバクさんとリさん



日本の円との価値の違いを紹介するVan Deusen助教



自作のVTRでベトナムの文化を紹介した後
にクイズをするトゥンさん



日本の給食を楽しむトゥンさん



昼休みに皆さんと一緒にサッカーを楽しむト
ウンさん



留学生も大好きな漫画文化の紹介

<第2回>



アイスブレーキングの名刺渡し



日本の和服文化から最新のファッションまで
紹介を受ける様子



名産品のお茶のサーバーの紹介
(校内施設案内の様子)



浴衣を着付けてもらい記念撮影



日本の給食を楽しむりさん



校内にて紹介された第1回交流会



第1回の記念撮影

(小柳教諭より提供)



第2回の記念撮影

(小柳教諭より提供)

アニメで教える外国語

中野はるみ

日時：2014年12月10日（水）9:55～10:45、10:55～11:45

対象：九州文化学園高等学校 1年1組39名・1年2組38名

テーマ：アニメで教える外国語

出前留学生：候 暁潔（コウギョウケツ・長崎国際大学大学院2年・中国・男）さん

尹 植（ユンシク・長崎国際大学4年・韓国・男）さん 2名

引率：中野はるみ

例年の恒例行事になっていた九州文化学園高等学校での異文化理解教室は1年の休みの後、再開した。国際部主任の原喜美枝先生からご要望をいただいたからである。

当日は、午前8:40に2名の留学生を乗せて大学の正門を出発した。

2名の留学生はそれぞれにパワーポイントを作成し、中国語と中国文化、韓国語と韓国文化を高校生たちに楽しく教えようとはりきって乗っているようすが見て取れた。

今回の出前授業は1年生が対象であり、2年時から始まる外国語学習への予備的な授業にしてくれと伝えてある。さらに、高校生にアピールするためには、「アニメ」を使用するのが効果的だ。候さんには、「ドラゴンボール」、尹さんには「ONE PIECE」と提案し、2人は期待にそって大変努力して、楽しい授業であった。



ドラゴンボールは「孫悟空」が主人公であり、キャラクターの名前が中華料理に由来していることや美味しそうな中華料理の紹介、候さんの生まれ故郷の「温泉地」の紹介など、多岐にわたって紹介してくれた。ドラゴンボールは古いアニメだが、最近リバイバルで放映されているので、高校生にとっても嬉しい教材だった。中国文化が日本のなかにどっかりと根付いていることに気付いたことだろう。



尹さんは、韓国語とハングルの違い、ハングルの種類、発音、韓国語になっている日本語などを教えてくれた。ONE PIECEの1シーンのアフレコ練習は、まるで韓国の声優になったかのように発音することができたので高校生の皆さんはご満悦のようすだった。「ソンテジマ」(手を出すな)は、一生忘れられない韓国語になるだろう。

後日、原喜美枝先生から、高校生の感想文が機関内郵送便で送られてきた。1年1組、2組の皆さんは、皆楽しんでくれたようである。素直な感想文を掲載して、授業の一端をご披露する。66名の感想文、謝謝。カムサハムニダ。

<中国語>

- ・中国語は異文化理解教室があるまで興味なかったんですけど、今回の授業で中国語の発音などを知りました。(K.I)
- ・あまり興味なかったけど、ドラゴンボールで楽しく分かりやすく教えてくださったので、とてもありがたかったです。(D.K)
- ・侯先生の日本語が想像以上に上手で日本人ではないのかとってしまうほどきれいに話していてすごいと思いました。(R.T)
- ・ドラゴンボールは小さいころ見てたので、わかりやすかった。(R.H)

<韓国語>

- ・ONE PIECEは韓国でも知られているとは驚きました。他にもポケモンも詳しく知っておりびっくりしました。(F.H)
 - ・韓国語は外国の中で一番興味があります。日本とそのまま同じ言葉などもあって、覚えやすいなあと思いました。(A.K)
 - ・とてもおもしろかったです。K-POPのアイドルが出てきたり、みんなの興味があるものを取り入れてくれてよかったです。(H.H)
 - ・ワンピースを見て色々な場面で韓国語を言って、とても頭に残りました。(M.M)
- 写真は原喜美枝先生が撮ってくださいました。ありがとうございました。

佐世保市立江上小学校 4 年生と異文化交流

谷口 佳菜子

1. 出前実施概要

対象：江上小学校4年生

日時：【第1回】2014年12月16日（火）10:40～11:30

【第2回】2015年1月20日（火）10:40～13:00

参加留学生：グエン・テュン・キエン（国際観光学科2年生 ベトナム出身）

グエン・ティ・キエウ・チャン（国際観光学科2年生 ベトナム出身）

パトリシア・エチャルヤ（国際観光学科2年生 フィリピン出身）

サムジャナ・ネパーリ（国際観光学科2年生 ネパール出身）

引率：谷口 佳菜子

【第1回】

場所：長崎国際大学

内容：留学生が出身地（ベトナム、フィリピン、ネパール）や出身地の文化に関する発表を行う。ネパールの衣装の紹介を行い、小学生に衣装体験をしてもらう。

【第2回】

場所：江上小学校

内容：留学生が小学生の日本に関する発表をきいたり、実際に体験したりすることで日本の文化について理解を深める。日本の小学校の様子をみたり、給食体験を行う。

2. 出前報告

【第1回】

1回目の交流では、留学生が出身地と出身地の文化に関する発表を行い、最後に質問の時間を設けて、小学生からの質問に答えるようにした。さらに、ネパールの民族衣装であるサリーの着用体験を小学生1名にしてもらった。

発表者	発表内容
グエン・テュン・キエン グエン・ティ・キエウ・チャン	ベトナムの紹介
パトリシア・エチャルヤ	フィリピンの紹介
サムジャナ・ネパーリ	ネパールの紹介

ベトナムの紹介では、キエンさんとチャンさんが、首都や国旗、民族の数や民族衣装のアオザイ、食べ物、世界遺産などの紹介を行った。途中、クイズ形式にして子供たちに正解だと思う方に手を挙げてもらうようにした。食べ物の写真を見せながら、チャンさんが「フォーはAとBのどちらでしょう？」とたずねると、子供たちは興味深くスライドを見ていた。さらに、ベトナム語の紹介では、キエンさんの後に続いて、声を出してベトナム語の練習を行った。「シン チャオ (こんにちは)」、「カム オン (ありがとうございます)」など、子供たちも大きな声で挨拶をしていた。



「フォーはどちらでしょう？」

発表の様子1

次に、パトリシアさんによってフィリピンの紹介が行われた。パトリシアさんが、「マガンダンアラウ！（こんにちは）」と言うと、子供たちも発声練習を行った。続いてフィリピンの島の数や公用語、宗教、小学生の一日についての紹介があった。フィリピンはキリスト教の国であり、フィリピン人にとって、クリスマスが重要であることなどが説明された。



「マガンダンアラウ！（こんにちは）」

発表の様子2

ネパールの発表では、まずネパーリさんが子供たちに、世界地図ではどの辺りにネパールがあるかをたずね、スライドで地図を見せて確認してもらった。それから、ネパールはヒンズー教の国であることを述べ、ヒンズー教の寺院が日本の寺院とは異なっていることなどを説明した。



「ネパールの国旗はどちらでしょう？」

発表の様子3

質問の時間には、小学生から、「フィリピンやベトナムにも神様はいますか？」、「フィリピンの国旗はどのようなものですか？」、「ベトナム、フィリピン、ネパールではお墓はどうなっていますか？」、「ネパールには世界遺産がありますか？」など、興味深い質問があり、それに留学生が丁寧に回答していった。



質問に答える留学生

最後に、小学生の代表1名にネパールの伝統的な民族衣装であるサリーを着用してもらった。



小学生によるサリーの着用体験の様子

【第2回】

2回目の交流では、小学生から日本の文化についての紹介が行われた。班ごとに、書道や茶道、日本の遊びなどについての紹介があった後、留学生たちは、4つに分かれたブースで、書道、茶道、日本の遊び（けん玉、あやとり、だるま落とし）、折紙を体験した。



日本文化の体験の様子



給食体験の様子

3. まとめ

1回目の交流では、ベトナム、フィリピン、ネパールと3カ国について紹介することができた。小学生はネパールの民族衣装であるサリーの着用体験や質問の時間に積極的に手を挙げていた。サリーの着用体験は女子生徒1名のみの体験となったが、希望者が多かったことから、衣装体験は子供たちの関心をひいたようだ。また、質問の時間には留学生が紹介した内容に関係してたずねることが多くあった。そのため、留学生からも、子供たちの質問が面白かったという感想がみられた。

2回目の交流では、留学生は日本の遊びが面白かったという感想を述べていた。大学生活の中で日本人との交流が多い留学生もいるが、日本の遊びを体験することは日常生活ではほとんどないため、非常に興味深いものだったようだ。茶道については、留学生全員が大学の授業で学んでいるため、自信を持って体験していた。留学生が学んでいる流派と子供たちが教えてくれた流派では作法が異なったため、その違いにも関心を示していた。

2回に渡る異文化交流により、留学生は自分の文化を子供たちに伝えるとともに、普段触れることがない日本文化を体験し、楽しく学ぶことができた。今回の出前授業により、江上小学校の子供たちにアジアの国々について関心をもってもらうことができたとしたら大変嬉しいことである。

異文化理解教室にご協力いただきました佐世保市立江上小学校の先生方に心よりお礼申し上げます。

異文化との共通点への気づき（佐世保市立小佐世保小学校）

滝 知則

実施期日	1月20日（火）
対象学年と生徒数	5年生1クラス（38名）
参加した留学生メンバー	エバン・バンギリナン（フィリピン）、陳芍君（中国）、 李嘉雯（ジェシー、香港）

交流の内容

3時間目は体育館で、留学生の国の子どもの遊びで交流。ティッシュ鬼（ジェシーさん）、100円と50円（陳芍君さん）と、ルクソン・ルビ（なわとび）（エバン君）の3つが紹介された。

4時間目は教室に移動。前半は、留学生の国の文化の紹介を行った。内容は香港のデザート（ジェシーさん）、中国広東省のお茶・朝食（陳芍君さん）と、フィリピンの紹介（エバン君）。後半は、小佐世保小5年生による日本の文化の紹介（子どもの遊びを含む）。



「100円と50円」を遊ぶ小佐世保小生とエバン君

留学生メンバーの感想

- (1)エバン君 何かをするとき、一緒についてきて教えてくれた。沢山の人たちが話しかけてくれた。特にゴウくんは、「エバン、エバン」と何度も名前を呼んでくれた。
- (2)ジェシーさん 一緒に遊んでいて、小佐世保小生の笑顔の見られることが楽しかった。小佐世保小の時間割が楽しそう。女の子たちと沢山話しができた。自分の日本語をよく理解し

てくれた。

(3)陳芍君さん ゲームをしたり、給食を一緒に食べたりして楽しかった。教室だけでなく廊下、駐車場やトイレも掃除することに驚いた。体育館から教室に移動したとき、2人の生徒たちが「陳さん、私の隣りに座って」と言ってくれたことがうれしい。小学生と留学生と一緒に校外を訪れたり、ボランティア活動をできたりしたら、もっと楽しいと思う。



マリアクララ（フィリピンの民族衣装）の紹介



給食の準備にとりかかる前に集合写真（真中がジェシーさん）



小佐世保小5年生の皆さんの意気込みを伝える「今日のめあて」

考察

3校時の留学生の国の遊びのときに、留学生メンバーが落ち着いて説明したこともうれしかったのですが、それ以上に、小佐世保小5年生の皆さんが、温かい雰囲気ながらも説明を真剣に聞いてくれたことに、筆者は感銘を受けました。

ジェシーさんが「ティッシュ落とし」を教え始めたら、「日本には、ハンカチ落としというよく似た遊びがある」と言われました。ジェシーさんは「えーっ、そんな遊びがあるんだ」と驚きます。みんなが楽しく笑って、「ティッシュ落とし＝ハンカチ落とし」を遊んだわけですが、国が違っても文化に共通する部分があることに、お互いに気付いたという、実はけっこう大切な瞬間だったように思います。

4校時には、フィリピンの女性の正装であるマリアクララを見て、「いいな」「来てみたい」とか、ハロハロの写真を見て「おいしそう」という声が上がりました。同じ言葉を話す人たちどうしでも、「あなたの〇〇、いいね」とほめられると、うれしくなり、相手と仲良くしたくなります。それと同じように、この日の何気ないつぶやきも、大切な国際交流だったと思います。

中国のお茶文化の説明を聞きながら、「ガンドンレンチャ」とシャドーイングをする人もいました。その耳の良さと外国語への強い関心を、これからもぜひ育てていってほしいと思います。

謝辞

高橋あき校長先生と5年生ご担当の松下先生には、大変お世話になりました。高橋先生とお話できたことを、留学生メンバーたちは喜んでます。来年度もまた交流の機会に恵まれることを、願っております。

参加者の生きている場所と時間を広げる国際交流(長崎市立尾戸小学校)

滝 知則

実施期日 1月22日(木)

対象学年と生徒数 1年生～6年生35名

参加した留学生メンバー 黄皓明(こうめい)、岑堃菱(デビー)、麥雅詩(ニコール)
(香港)



日本の昔遊びの説明を聞いているデビーさん



どんぐりごまの遊び方を教えているのがこうめいさん

交流の内容

- ①香港の紹介、②広東語のあいさつ、③日本の昔あそび、
④チキンダンス、⑤香港の遊び



デビーさんはどんぐりごまの遊び方を教わっています



もうすぐチキンダンスが始まります

留学生メンバーの感想

- (1) こうめいさん 尾戸小生と一緒にゲームをして楽しかった。校長室で菅藤校長先生やいきいき体験教室のメンバーと、香港の話をしたことも楽しかった。
- (2) デビーさん これまでは6年生との交流が多かったが、尾戸小では1年生とも交流できた。手をつないで一緒に遊んでくれたことが楽しい。みゆちゃんがハグしてくれたので、嬉しくて感動した。さらに下校途中、尾戸小の人たちが、自分たちが乗った車を追いかけてくれたので、まるで映画の中のように感じた。地域住民の方たちとも話ができて楽しかった。一日一緒にツアーができればよいと思う。

- (3)ニコールさん チキンダンスのとき、尾戸小の生徒が手を握って一緒に踊ってくれたのがうれしい。大人の人たちと話す機会が、普段はあまりないので、よい経験になった。一緒にランチを食べられたらうれしい。



また来年会いましょう！

考察

本学の留学生が尾戸小学校を訪問する際、ALTの先生とはこれまでも一緒に交流をしていただいた。また、尾戸小の子どもたちが地域住民の方たちと交流していることも、伺っていた。今回は初めて、尾戸小をとりまく3つのグループを一同に引き合わせていただいた。英語圏の先生ならびにアジアの留学生と同時に交流したわけだが、日本にとって英語圏もアジアの国々も大切な交流相手である（他の国々・地域もちろんそうであるが）。そうした日本の国際関係の特徴を、尾戸小の人たちが実感してくれたと思う。

また地域住民の方たち（いきいきふれあい体験教室のメンバー）との交流は、尾戸小の人たちにとっては、年長の人たちとのつながりと、地域社会の文化とのつながりとを再確認する機会だったと思う。本学の留学生たちにとっては、日本と日本文化をこれまで以上に広く深く理解する機会となった。

こうした意味で、この日の交流の地理的な幅はグローバルであった。また私たちが多くの人たちのいのちとつながっていることを知らせるという意味で、人間の歴史を感じさせる交流でもあった。このような形での交流が、今後も実現してほしいと思います。

謝辞

菅藤大三校長先生と村山明宏先生には、今回の交流にあたり、大変お世話になりました。ALTのチャド・クーバー先生のおかげで、楽しいチキン・ダンスの交流ができました。いきいき体験教室のメンバーの皆様と交流ができたことを、留学生たちは大変よろこんでおります。皆様に、あらためて深くお礼を申し上げます。

留学生メンバーの感想

小学校訪れて

エバン (Pangilinan Jun E P)



私たちの誇りにしている「フィリピンの文化と伝統」を楽しんでもらおうと、神経質で小心な私は小学生に初めてプレゼンテーションをしました。

小学校に到着すると同時に小学生や先生方は、暖かい歓迎を受けました。彼らは、本当に私たちによく挨拶して、私たちを気分がよくさせました。プレゼンテーションでは、フィリピンの小学生の活動について話しました。朝から夕方までの活動まで、それらは、起きる時間や学校へ行く時間、1時間目、休み時間、宿題をすること、夜、家族と過ごす時間、寝ることなどです。学校活動に関する実際のビデオを見せました。

プレゼンテーションの後、私たちは小学生と一緒にゲームをしました。小学生は、私たちに日本のゲームを教えてくださいました。その後、先生や小学生と一緒に給食を食べました。給食はおいしかったです。全ての活動は忘れられません。非常に面白かったです。

2014-15年度イブケン参加した感想

岑堃菱（デビー）



A) どの小学校に行ったか

私は1月22日尾戸小学校へ行きました。尾戸小学校には全校一年生から六年生が四十何人しかいなかったです。私たちがホールで香港の紹介をして学生と遊びました。去年も尾戸小学校にボランティアしました。前回と同じで先生と学生も私たちに優しくしてくれて楽しかったです。

B) 楽しかったこと

- 1) 小学生とチキンダンスをした時、幼稚と思いましたが楽しかったです。
- 2) 子供と手を繋いで遊んだ時、妹みたいでいい感じですね。
- 3) 交流活動を終わったらミュちゃんが抱擁してくれた時、とても感動しました！また来年会いたいですね！
- 4) 山の道に学校が終わった学生が走って私たちに「さよなら」を言った時、「おもてなし」の感じできで嬉しかったです。

C) 日本の文化や、日本の小学生と小学校について分かったこと

日本人の教育はいいと思います。学生は先生が言ったことを従ってそして、他の人の気持ちも配慮します。

D) イブケンの活動をする中で、香港について改めて分かったことや感じたこと

香港の夜景は留学生になった前に思ったよりきれいと思います。ヤムチャや食べ歩きもしたいです。

E) その他、イブケンの活動の感想など、自分が書きたいこと

普通はあまり日本の子供と交流する機会はなかったですがイブケンの活動を参加して学外の体験をできでよかったと思います。来年度もまたさんかしたいです。

広田小学校へ行って

陳嘉晞（ヘイリー）



2014年10月広田小学校の交流活動を参加しました。一番楽しいことは子供たちと体育館で一緒に遊ぶことです。違う国でジャンケンのやり方も違って、子供たちが真剣に私たちの説明を聞いてもらって本当によかったと思います。わたしも勉強になりました。その後、クラスに入って遊ぶ時もルールややり方をやさしく教えてもらって、子供たちと会ってばかりなのに、同じチームメンバーだと思われてチームワークがよくできました。それははじめて日本の子供たちとそんなに近い距離で話したりして、日本の子供たちが純真で無邪気で話しやすいと思います。わたしは元々すごく緊張していましたが、一緒に遊んで、話してくれて、歓迎されたと感じて、こころがあたたかくなりました。

そして、教室で香港についての紹介をして、子供たちが興味を持って聞いてもらいました。みんながちゃんと質問を準備して、手を上げて聞いたりしました。その熱い反応が香港の子供の反応が全然違って、ちょっとびっくりしました。でも、香港についてこんなに興味を持って本当にうれしかったです。その中で、一番印象に残った聞かれた質問はお金（香港のコインとお金の札）についての質問です。こんな質問が聞かれるなんて思ったことがないので面白かったです。香港のコインのデザインが日本とすごく違うので、説明が難しいから黒板に書いて説明しました。それはわたしにとって特別な経験で、こんな交流活動が好きです。

その日は時間が足りなかったので、小学校の給食体験をできなくて、ちょっと残念でした。が、ちょうど交流活動が終わるときはランチタイムですから、少し日本の小学校の給食の様子を見えました。小さい子供でも自分でご飯を取っていて、ちゃんと自分のやることや役目をわかって、真剣にしました。そんな育て方は子供が成長させ、責任感も高めれると思います。それは香港の小学校習うべきことです。今回の交流活動はいろいろ勉強になって、日本文化についても深くなりました。

イブケンの活動の報告書

陳芍君



先日、滝先生に連れられて小佐世保小学校へ行った。

一、楽しかったこと

学校は山の上にある。最初に室内の運動場で小学校の皆さんに会った。扉に入ると、割れるような拍手の音は広まってきた。子供たちの暖かくて、親切な熱情を感じた。これは最初に心を打たれたことである。そして皆さんの笑顔と整然できれいな挨拶も忘れられないものだ。ゲームが終わった後、私たちは子供たちと一緒に教室に移動した。教室に入るや否や、何人の子供は「陳さん、こっちこっち」と言ってくれた。私の名前は覚えてくれて、席も誘ってくれて、これは一番楽しかったことだと思う。ご飯を食べたとき、子供たちは私の身の回りに来て、自分の名前を私のノートに書いてくれた。日本の名字は読みにくくて、覚えられないと思ったから、彼らは親切に教えてくれた。

二、日本の学校についてわかったこと

日本の小学校の印象という、深く残っているのは自律のことだと思う。特に昼食の時、とても震撼された。よく煮たご飯と菜を教室に運ぶ担当者はいない。全部子供たちは順番にするのである。そして、大体毎日は掃除しなければならない。教室や廊下や駐車場やトイレも順番にする。「大変だと思わない」と聞いたら、「ううん、全然、楽しかったから」と返した。私、まったく驚いたのだ。中国では、昼食の担当者と学校の掃除の責任者は必ずいる。学生は勉強のことだけだと言える。そのことはあまりしない。だから、自己中心的で、わがままな人間はたくさんいると思う。これと反対に、日本は団体意識が重視していると感じた。共同のことだから、みんなは責任を持つ。団体のために、ちゃんとやるルールを守る。自律性が強くて、和やかな雰囲気生活している。

三、自分の国と比べて分かったことと感想

もう一つの印象を残っているのはごみの分類のことである。昼食は牛乳も付いたから、飲んだ後、ごみとしての牛乳の紙とストローは分類しなければならない。直接に分類だけではなく、まず牛乳の紙は説明した通りに折り畳み、整然と捨てる。隣の座っている子供はこういう風に教えてくれた。なぜ日本はごみの分類はやり続けるのか、これは答えだ。教育は赤ちゃんからだ。中国に育てられてきた私はこのようないい習慣がないから、途中でやり直すのは大変なことだと思う。ほとんどの中国人のおもった通りに、面倒だ。小さいころから、ごみを分類して、環境にやさしくする意識がないのだから、大人になって以来、頑固な考え方は変えられない。しかし、変えるのはどんなに難しくても、やり続くべきだと思う。民族の覚醒が必要だから。

宮小学校や江上小学校へ行って

パトリシア (Echaluce Patricia CC)



1. 私は日本語が下手ですけれども、外国人留学生として自分の国について話して、それらを生徒たちと共有できたことを誇りに思います。私は子供たちが本当に好奇心や興味を持って学んでいたことがわかりました。

As a foreign student, telling and sharing about my country made me proud of myself even if I am not good in the Japanese language.

I can see that the children were really curious and interested to learn.

2. 宮小学校や江上小学校の皆さんは非常に暖かく、私たち外国人留学生を歓迎してくれました。The school gave and showed us foreign students a very warm welcome.

3. 子供たちとの出会いは、とても楽しかったです。すべての文化や国の違いに着目することを教えてくれました。時間を共にもち、学生たちと再び交流する機会があれば、もし可能ならばお話するだけでなく、両方の文化を活動的に探究し学ぶ方がもっといいのではないかと思っています。

The encounter with the children was very fun, taught me to be aware with the differences of every culture/country.

If given the chance to share and interact with students, I suggest that we do more on exploring and learning both cultures not just in discussions but also in actual if possible.

ベトナムの小学生の話をして

フォン (BUI HUY PHUONG)



宮小学校で、ベトナムの小学生の生活を話しました。スライドを使って紹介しましたが、楽しかったです。また、行きたいと思います。



制服



皆遊びます



広田小学校と尾戸小学校へ行って

麥雅詩（ニコール）



今年は初めてイブケンの活動を参加して、いろいろな忘れられない経験をできて、本当に楽しかったです。

今年度は広田小学校と尾戸小学校に行きました。楽しかったことがたくさんありました。日本で留学しているのですが、日本人の前にプレゼンすることは学校の先生にしかありませんでした。最初広田小学校に行った時、考えることがたくさんありました。もし、小学生が私のプレゼンに全然興味がなくて、聞いてくれなかったら、どうしようかなとか、あと、日本語がまだまだ上手ではないですから、もし小学生の質問に日本語でどうやって返事した方がいいですかがわからない場合は、どうすればいいですかとか、いろいろな心配なことがあって、本当に緊張しました。

でも、香港についてのプレゼンを始めたら、私の日本語が下手ですから、うまく行きなかったけど、小学生たちがずっと興味を持って、私の用意しましたスライドを集中して、笑顔をしていろいろな返事してくれました。あと小学校の先生たちも優しいです。印象に残ったのは、プレゼンの時、ある小学生からの質問があって、日本語を伝わなかった時、先生が優しくて簡単な日本語で説明してもらいまして、助かりました。いろいろあって、私に安心させて、本当に感動しました。

あと一つ印象に残ったことは、小学生たちの優しさです。私は外国人ですが、私の手を繋いで、一緒にゲームしたり、私の生活習慣などを興味を持ったり、今度ぜひ来てくださいと言われてたり、皆と仲良になりましたことは本当に嬉しいです。

そんないろいろな経験は本当に珍しいと思います。もしチャンスがあれば、何度でもイブケンの活動を参加したいです。

イブケンの活動をする中で、香港について改めて分かったことや感じたこと

リ カマン (李 嘉雯)



私は1月20日に佐世保市立小佐世保小学校に行きました。印象に残ったことはいくつもあります。

まず、校長先生はとても親切です。香港の校長先生はいつも忙しくて、会うことさえもできないし、会ってもお茶は入れないと思います。しかし、佐世保市立小佐世保小学校の校長先生は私達と日常的会話をなさってくださいましたし、お菓子までいただきました。香港の校長先生と違って、佐世保市立小佐世保小学校の校長先生は厳しい顔をなさってなくて、こういう親切さに驚かせました。

日本の小学生も、香港のとずいぶん違います。香港の小学生は、朝8時の学校から、夜7時の塾に通っているのです、いつも大人より疲れている顔をしています。しかし、日本の小学生は、心から笑って、幸せな顔をしています。この子供を見ると、この幸せさも私に伝えてくれたような気がします。

香港の小学生も、日本の小学生も、色々なことができて、頭がいいと思います。香港の小学生は、3歳からダンス、4歳からピアノ、5歳から水泳、6歳からフランス語を学び始めるのは、香港ではよく見られて、とても普通なことですが、歯を磨くことさえできない子もいるそうです。日本の小学生は、ピアノやフランス語などがわからないかもしれませんが、自分で料理とかトイレの掃除ができて、食事の準備もしっかりやって本当に立派な子です。香港の小学生は、こういう自主意識が一切ありません。香港の未来は、どうなるのでしょうか、ちょっと心配してしまいました。

日本の小学生の姿を見ると、香港の小学生はいろいろなことができて、基本的なことを忘れてしまったんじゃないでしょうか、と思います。

参加学生の感想～波佐見町立東小学校～

リ・ヒュウラム（国際観光学科3年生・香港）



異文化理解教室に行く前は緊張しました。小学生達は私のことを怖いかどうかわかりませんが、でも実際はみんなも私と話して、私を連れて学校を参観しました。小学生達はとても親切で元気だと思います。

楽しんだことは日本の小学生達と話したりやご飯を食べたりも楽しかったです。1日だけ日本小学生になれました。いつもテレビドラマなどしか見えない場面は体験できることが嬉しいです。

学んだことはやっぱり小学生達は自分の昼ごはんを準備して、片付けることです。香港の学生と全然違います。これはとてもいい習慣だと思います。香港の学校もそうしたら、香港の学生の性格も違ってくると思います。

この機会があって、本当によかったと思います。

グエン・タン・トゥン（国際観光学科3年生・ベトナム）



日本人の小学生についてはなんとなく言葉で全部言えないと思います。ベトナムの小学生より大人に見えるけど、子供はやはり子供だ。とても優しく、可愛かった。

楽しかったことは、私は自分が一所懸命作った映像をみんなに見せたり、みんなもちゃんと聞いてくれたりしている。最後に質問するときに、ほとんど正しい答えを答えてくれました。私の趣味がちゃんと分かってくれて、私の大好きなサッカーチームもちゃんと分かってくれて、サッカーチームのバッジを作ってくれたから、とても嬉しかったです。

交流する前に自分の日本語がうまく話せるかどうかかなり心配したが、みんなと冗談したり、みんなを笑わせることができたり、日本語が上手ですねって褒めてくれたりしていて、ほんとにホッとしました。私は何回も参加したことがあるから、緊張なんかなくて、一年生と比べたら、結構成長できたと思っています。

シン・コウリョウ（国際観光学科3年生・香港）



第二回目に波佐見東小学校へ行きました。去年と違う生徒でしたが、皆も活発で可愛いです。優しくしてくれました。

交流会では、小学生と給食を食べて一緒に遊んで着物を着て、星のカビイの漫画を見て嬉しかったです。

日本の昔の遊びや剣道やマンガや服やお金や鉄道などの知識を習いました。

バク・シエイ（国際観光学科3年生・香港）



異文化理解教室は本当に楽しかったです。香港のことを日本の小学生に紹介する時、ある生徒たちが香港のことは知っているのはびっくりしました。みんなも元気で、親切に遊んでくれて、嬉しかったです。昼ごはんの時、みんなも一緒に手伝って準備をすること、片付けをすることすごいです！

今回交流できたのは本当によかったと思います、また機会があったら行きたいです。

ネパーリ・サムジャナ（国際観光学科2年生・ネパール）



日本の小学校はネパールの小学校より大きくて学校でいろんな授業あります。生徒が焼き物もすることできていいと思います。先生方と生徒のみんなが優しいと思いました。

前に行った学校でもいつも通り自分の国のこと話しましたが、そこでも子供たちが私たちの国のこと調べています。一緒に遊んだりご飯食べたりして楽しかったです。生徒達と一緒に楽しみながら遊んでいたのが嬉しかったです。

ネパールでは学校に制服ありますが、日本の小学校はそれがありません。日本では、みんな小学校から自分の物を自分で準備して昼ご飯もみんな準備します。それはネパールの小学校にないです。

留学生による異文化交流の感想【佐世保市立江上小学校】

サムジャナ・ネパーリ（国際観光学科 2 年生 ネパール出身）



1. 小学校との交流について

江上小学校での交流は、今年私は二回目になります。その小学生みんなは楽しく私たちが言ったことを聞きますから、交流は本当に良かったと思います。子供たちみんな私たちの国のこと調べています。江上小学校で子供と一緒に日本の子供の遊びするのは初めてでした。でも本当に楽しかったです。子供が私にいろんな事を教えてくれました。

2. 日本の小学校、給食について

日本の小学校で子供が自分のこと全部自分でします。それはネパールにはないです。ネパールで学校10:00 から始めますから家でご飯食べて学校に行きます。そして13:30 に学校で食べますが、パン、果物、ヌードルを食べます。学校でご飯を食べません。日本の小学校では子供の健康に合うご飯がありますから、それはいいと思います。

3. その地の感想・意見等

日本の小学校の子供と一緒に遊ぶのは、私は本当に好きです。私がネパールのこと教えます。そして私も日本の小学校のことを習いますからこのような交流はいいことと思います。でもいつも時間が短いだから早く短い時間に全部することはちょっと難しいです。今度機会あったら一日小学生と一緒に遊びのイベントがあったらいいと思います。

パトリシア・エチャルヤ（国際観光学科 2 年生 フィリピン出身）



1. 小学校との交流について

日本の子供たちのグループにフィリピンについて議論することは、嬉しく、誇らしいことでした。私が日本語をうまく話すことができなくても、子どもたちは耳を傾け、関心を示してくれました。

Discussing about the Philippines in a group of Japanese kids made me glad and proud of myself even if I cannot speak good Japanese language but still the children

listened and showed interest.

2. 日本の小学校、給食について

とても楽しかったです。私は他の学校にも行きましたが、今回は、子供たちが私たちに日本文化を教えてくれ、私たちと一緒に遊んだので、非常に楽しむことができました。
I had so much fun in that school, I went to other schools but this one I enjoyed the most because of the children who were very open to teach us the Japanese culture and play with us.

3. その地の感想・意見等

私たちが実際の環境に触れ、地元市民と出会う活動は、外国人留学生のために役に立ちました。子供たちと一緒に学び、遊ぶための十分な時間がほしいです。
The activity was helpful for us foreign students because we are exposed to the real environment and get to encounter with the local citizens. Allot enough time to be with the kids and learn and play.

グエン・テュン・キエン（国際観光学科 2 年生 ベトナム出身）



1. 自国の紹介について

ベトナムは東南アジアの中央部に位置し、“S”字の形をしています。具体的にはインドシナ半島の東側に属し、北は中国、西はラオスとカンボジアと、また南シナ海に接しています。東南アジア地域の中心的な位置にあり、中国、ラオス、カンボジアとともに、日本に近い国の一つです。

2. 小学生との交流について

小学生が大人しかったです。素直に意見をききます。ベトナムに好奇心を持ち、私たちにいっぱい質問しました。

3. その他の感想・意見等

小学生と歓談したいです。日本の文化を究めたいです。楽しかったです。

グエン・ティ・キエウ・チャン (国際観光学科 2年生 ベトナム出身)



1. 自国の紹介について

ベトナム社会主義共和国は東南アジアのインドシナ半島に位置する国である。「S」の字のような形である。

首都：ハノイ (全国の経済センター：ホーチミン)

人口：8.87 万人 (90%キン族です) 全国：54 民族

面積：33 万 1212 平方キロメートル

宗教：仏教 (90%)

言語：ベトナム語

季節：四季

通貨：ベトナムドン

ベトナムの国旗はあかぼし国旗と呼ばれている。赤：民族の血、星：金色 (五角)

2. 小学生との交流について

みんなかわいいです。質問がおもしろいです。

広報活動

ホームページ掲載

2014年05月10日

【異文化理解教室】佐世保インターナショナルレディースクラブの皆さんとの

国際親善

5月8日（木）、NIU異文化理解教室が本学で開催されました。本日の異文化理解教室を楽しんでくださったのは佐世保インターナショナルレディースクラブ（ILC）の72名の女性です。



《袴姿で来てくださった山住会長のご挨拶》

ILCは50年の長きに渡って、佐世保の地で国際交流をなさってきた民間団体で、今回は日本人50名、アメリカ人22名の皆さんが本学に来てくださいましたが、韓国、ミャンマー、中国、香港、ネパール、ベトナム、フィリピンの6か国からの留学生が、自分の国の文化を紹介しました。



《韓服姿での韓国紹介》



《民族衣装でミャンマー紹介》



《ミャンマーのダンス披露》



《チャイナドレスでの中国紹介》



《香港の紹介》



《民族衣装でネパール紹介》



《民族衣装でベトナム紹介》



《民族衣装でフィリピン紹介》

どの国の発表も母国への愛情にあふれたプレゼンテーションでした。ILCの皆さんも着物姿で日本人のアイデンティティを表してくださり、各国事情クイズに一喜一憂、参加型プログラムをエンジョイしてくださりました。

本学の留学生は、NIU異文化理解教室で近隣の小中学校、高校へ異文化理解教室の出前授業を行っています。まだ10年に過ぎません。ILCを見習って、留学生との交流の輪を地域に広げていこうと思います。

このような発表の機会をくださった佐世保インターナショナルレディースクラブの会長様、お世話下さった吉田様はじめ、ご参加くださった皆様に心より御礼申し上げます。これからも佐世保の地で国際交流の輪がますます広がるよう、願っております。

授業の合間をぬって、プレゼンテーションの準備をし、自分の責任を果たした留学生の皆さん、お疲れ様！

NIU異文化理解教室の出前をご希望の方は、いつでもお申し込みください。

2014年06月27日

【異文化理解教室】佐世保市立宮小学校で NIU 異文化理解教室を行いました。

6月26日（木）にNIU異文化理解教室は佐世保市立宮小学校にでかけました。同校は6月の「命の月間」に毎年「ふれあい教室」を実施しています。昨年より、地域の達人に交じって、NIU異文化理解教室が開催され、本学の留学生との「ふれあい」がなされています。

今回は、フィリピン、ミャンマー、ベトナム、中国、韓国の5か国の留学生が、自国の小学校生活について、話しました。



「てるてる坊主」の下で自己紹介



<フィリピン> 1年生 ECHALUCE PATRICIA CLAUDINE CARINO さん、
PANGILINAN JUN EVAN PANGANIBAN さん

フィリピンの小学生は、なんと朝5:30に起きて、7:00からの授業に備えるそうです。学校には売店があり、お菓子が買え、ジュースが飲めるんだとか。生徒：えっ！そんない！



<ミャンマー> 大学院研究生 Phyu hnin Wai さん

「ミンガラバー」というあいさつで始まったミャンマーの小学生事情。生徒：あ！字がかわいか！ピューさんの小学生時代もかわいか！



<ベトナム> 2年生 BUI HUY PHUONG さん 1年生 NGUYEN TAN DUY さん

ベトナムでは「体育」の授業はないけれど、30分の休憩時には必ず5分間の体操があるそうです。生徒：30分も休むの？ 先生：2時間半の勉強の後よ！生徒：え！ええええ！ウッソー！



<中国> 3年生 付 晓丹さん

毎朝、朝食には「揚げパンを豆乳に浸して食べますよ」と、故郷を思い出しながら話す留学生。

ラジオ体操だけでなく、「目の体操」も毎日するそう。一緒にやってみました。



<韓国> 4年生 尹 植さん

「休みが長くていいなー」という声が聞かれた韓国の小学生生活。でも、塾だらけのビルには、生徒：わー！大変そう！



最後に、ビー玉で遊びました。同じような遊びがあるけれど、「はじき方」の違いにびっくり。生徒：フィリピン、ベトナムは難しいなー、日本は、なんて簡単なんだろう！

昨年、イブケンに参加した留学生が、「オボエテル？」と聞くと、生徒が「うん」という「感動の出会い」がありました。「また、来年もこのクラスにする！」という生徒もいて、国の違い、年齢の違いを超えて、イブケンは「友情」を育んでいることが実感できました。

長崎国際大学の留学生は日本の佐世保に自分の足跡を確実に付けてくれています。わたしたちも彼らの目にしっかりと日本、日本文化、日本人を焼き付けたいと思います。



楽しい「ふれあい教室」でしたね。また、来年ね！

NIU 異文化理解教室

2014年07月03日

【異文化理解教室】異文化理解研究室のメンバーが中央大学文学部人文社会科学教育学専攻の学生の聞き取り調査を受けました。

2014年6月24日、異文化理解研究室のメンバーが中央大学文学部人文社会学科教育学専攻の学生の聞き取り調査を受けました。この調査は「教育実地研究」という学生主体の授業の一環で行われているそうです。本学の「異文化理解教室」は特色ある教育実践の一つとして取り上げられました。

異文化理解教室は、本学の留学生が近隣の小・中・高等学校などへ出かけ、自分の国のさまざまな文化を紹介し、これまでの人間の営みをともに考え、これからのグローバル社会をともに生き抜く力を育みあう、若者同士が協働する教室です。



実践例や留学生、交流先の反応等についての質問に答えていきました。



国際理解教育班の皆さん

異文化理解教室という実践の場についてお話しできたことはとてもよい機会でした。

異文化理解研究室は、留学生による出前授業がこれからも地域に根ざし、国際交流と異文化の理解に貢献できますことを願っています。

異文化理解研究室

2014年07月30日

【異文化理解教室】NIU 異文化理解研究室懇談会を開催しました。

7月24日（木）、NIU 異文化理解研究室懇談会を、本学キャンパスで開催しました。



懇談会に出席した小学校の先生方とイブケンのメンバー

NIU 異文化理解研究室のメンバー（国際観光学科教員と留学生）は、佐世保市ならびに近隣地区の学校からご要請をいただいて、NIU 異文化理解教室（イブケン）を実施しています。各学校で異文化理解教室を実施する際には、学校の先生方と本学の留学生たちがじかに言葉を交わす時間があまりありません。そこで、異文化理解教室をめぐって感じることを話し合っていただく機会を設けました。

留学生たちは小学校の先生方に、「異文化理解教室に参加して日本人と交流する機会が得られた」、「ベトナムの小学校の様子を説明したところ、熱心に聴いてもらえた」とか、「教えたあいさつを実際に使って話しかけてくれた」といった感想を伝えていました。

また、イブケンの活動が自分のためになったことの例として、「佐世保独楽をまわせるようになるなど、佐世保の文化を理解できた」、「人前で話すことが以前は苦手だったが、イブケンを通じてできるようになった」といった報告がありました。

小学校の生徒さんたちが喜んだことは何でしたか、との問いに対して先生方からは、「留学生の国のゲームと食べ物への関心がとても高い」、「交流の中で一番盛り上がったのは、留学生たちと運動場で一緒に走ったこと。人と人のふれあい、一緒に体を動かすことの大切さを感じた」とのご報告がありました。

最後にイブケンに対する期待が、先生方から述べられ、「交流の機会を増やしたり、交流の方法にさらに工夫を加えたりするのがよい」、「留学生の言葉を学んだり、日本語と一緒に学んだりしたい」といったご提案がありました。

NIU 異文化理解教室が、地域社会における異文化理解の機会と、本学の留学生たちが地域社会に参加する機会を提供していることが、今回の懇談会を通じて確認できました。

ご出席をいただいた小学校の先生方、どうもありがとうございます。話し合いに参加した留学生のみなさん、お疲れ様でした。更なる活躍を期待します。

NIU 異文化理解研究室は、佐世保市と近隣地区における異文化の理解と多文化共生社会の創造に向けて、これからも貢献してまいります。

NIU 異文化理解研究室

2014年10月27日

【異文化理解教室】佐世保市立広田小学校で NIU 異文化理解教室を開催しまし

た。

10月15日（水）、佐世保市立広田小学校で、6年生を対象としてNIU 異文化理解教室を行いました。この日参加したのは、韓国の留学生が1名、ネパールの留学生が1名と、香港の留学生が3名です。

交流の前半は体育館で行いました。あいさつ、自己紹介、数の数え方とじゃんけんの遊び方を留学生たちから教わると、その次にじゃんけん勝ち抜きゲームと伝達ゲームをしました。



体育館で自己紹介。お互いにまだ少し緊張しています。



じゃんけん勝ち抜きゲームが始まると、笑顔が見えるようになりました。



クラスに分かれてのジャンケン勝ち抜きゲームの様子



伝達ゲームが終わり、留学生と一緒に「やったー！」と喜んでいます。

体育館でゲームをして仲良くなったあとで、各クラスの教室に移動しました。交流の後半では、留学生たちが自分の国を紹介しました。香港からの留学生たちは、広東語のあいさつも教えました。広田小6年生の皆さんは、スライドに書かれた広東語を、自分から発音していて、外国語の学習に熱心であることが分かりました。



仲良く遊んだ留学生から、今度は韓国の文化を学んでいます。

体育館で仲良くなったので、教室での交流のときも、お互いに話をしやすくなったようです。声を出し、体を動かして一緒に笑うことが、国際交流には不可欠なのだと思います。



広田小6年生とすっかり仲良くなり、まるでクラスの一員のようです。

留学生たちは、「6年生から色々と質問をされて楽しかった」とか、「広田小の先生から広東語でのじゃんけんの遊び方を尋ねられたので、仲良くなれました」という感想でした。それから、「プールがあること」、「学校にペットが飼われていること」や給食があることが、自分の国の小学校にはないことなので、興味を持ったそうです。

もちろん、「もっと交流したかった」、「また交流したい」との感想もありました。広田小6年生のみなさん、また近いうちにお会いしましょう！

NIU 異文化理解教室

2014年12月12日

【国際観光学科】九州文化学園高校で異文化理解教室を実施しました。

12月10日(水)九州文化学園高校の1年生を対象にNIU異文化理解教室を実施しました。本学の留学生である候暁潔さん(中国・大学院人間社会学研究科2年)と尹植さん(韓国・国際観光学科4年)が、「ドラゴンボールで覚える中国語」「ONE PIECEで覚える韓国語」というテーマで楽しく異文化理解教室を展開しました。



「ドラゴンボール」は中国の孫悟空を鳥山明が漫画化したもので、アニメ・ゲームなど世界中の若者を魅了してきました。候暁潔さんは素材となった中国文化やアニメのことなどを楽しく教え、2年生から学び始める中国語学習への導入となる授業を展開しました。



「ONE PIECE」もまた、世界中の若者に人気のアニメです。尹植さんは、アニメの一場面を使って、「違う」「手を出すな」「ありがとよ」などの韓国語を身振り手振りを使って覚えやすく紹介しました。アニメを見ながら、韓国語の吹き替え作業はとても楽しく、一生忘れられない韓国語学習になったことでしょう。2年生からの韓国語学習が楽しみです。

2人とも頼もしい外国のお兄さんのようで、高校生の皆さんはとても嬉しそうに授業に参加していました。留学生は、かわいい弟や妹に教えているようで、やはり楽しそうでした。若者たちの交流は国を超えて未来を切り開いていくエネルギーの場を与えてくれます。この交流の機会がさらにつぎなる発展を生みだすよう心から願っています。

NIU 異文化理解研究室

2014年12月26日

【異文化理解教室】 広田小学校の「広っ子フェスティバル」に出演しました。

12月12日（金）、佐世保市立広田小学校で行われた「広っ子フェスティバル」に、本学の留学生3名が参加しました。

本学に在学している香港の留学生の人たちは、広田小の6年生との交流の中で、広東語教室を以前から行っています。今年は、フェスティバルの演目の一つとして「広田小・長崎国際大学 ふれあい広場」に出演する機会をいただきました。そこで広東語教室を、広田小の他の学年の子どもたちと、広田地区の住民のみなさまにも紹介することにしました。



広田小6年生のみなさんと香港からの留学生たち

出演のあとで留学生たち3名は、6年生の発表「われら地球人」を鑑賞しました。広田小学校6年生の皆さんは、毎年この発表を行っています。今年は、留学生の国の特徴・言葉・子どもの生活を調べた成果が、この発表に盛り込まれました。



「われら地球人」を鑑賞する香港からの留学生たち

この「われら地球人」の発表をお手伝いするための交流は、11月28日（金）に行われました。このときはフィリピン、ベトナムとネパールからの留学生たちが、自分の国の特徴を紹介しました。この交流の中では、それぞれの国の料理づくりへの挑戦もありました。



フィリピン料理づくりに挑戦



ベトナム料理づくりに挑戦



ベトナムとフィリピンの留学生たちと、ふつうに話しています

本学の留学生たちは、「広っ子フェスティバル」を直接・間接にお手伝いする機会をいただきました。広田小6年生の子どもたちに加え、広田小の他の学年の子どもたちや、広田地区の住民のみなさんのいらっしゃる場所に参加したことから、留学生たちは「自分たちも広田地区の一員なんだ」という気持ちを持てたことと思います。

また、11月に行った「広っ子フェスティバル」の準備のとき、留学生たちの中には「日本の弟たち、妹たち」と交流できたと感じた人もいたと思います。

広田小のみなさんと本学の留学生たちとの交流は、留学生の国の文化を紹介し、「われら地球人」の気持ちを、広田小のみなさんに持ってもらうことに、役立っていると思います。そして本学の留学生たちにとっても、「われら地球人」の気持ちを再確認できる機会になっています。

このような機会を与えていただいたことに、深く感謝いたします。どうもありがとうございます！

2015年01月29日

【異文化理解教室】長崎市立尾戸小学校でNIU異文化理解教室を開催しました。

1月22日（木）、長崎市立尾戸小学校で、NIU異文化理解教室を開催しました。この日の教室には、香港からの留学生たちの黄皓明（こうこうめい（こうめい））さん、岑堃菱（しんこんりょう（デビー））さんと、麥雅詩（まくがし（ニコール））さんの3人が、出席しました。

尾戸小学校での交流は毎年行っています。今回はALTのチャド先生と、いきいき体験教室をご担当の地域の方6名もご参加になりました。

当日はまず、香港の概要、主な観光地と食文化を紹介したあと、広東語のあいさつを練習しました。香港の景色には「わーすごい」という声があがりました。飲茶の写真を見て、隣の人に（おいしそう！）とニコリ笑いかける男の子もいました。また広東語の練習では、日本語ではあまり使わない音を上手に発音して、「んほういし」と言っていました。その次は、尾戸小の皆さんが日本のむかしあそびを教えてくださいました。どんぐりごま、だるまおとし、おてだま、はねつきなどです。むかしあそびが始まると3人の留学生たちは、尾戸小の皆さんとごく普通に、お互いに抵抗なく遊んでいました。3人は「留学生のお姉さんたち」から、普通の「お姉さんたち」に変わったようでした。



どんぐりごまですべて遊んでいます（右がこうめいさん）



こまで遊ぶニコールさん



はごいたで遊ぶデビーさん



チャド先生に会わせてチキンダンスを踊っています

ALTのチャド先生が教えてくださるチキンダンスをみんなで踊り、その後には香港の遊び「大風吹いてる」を楽しみました。留学生たちは、香港に独特の遊びと思っていたのですが、遊び始めるとすぐに、「これはフルーツバスケットに似ている」と教えられて、少しびっくりしていました。日本と香港で、遊び方は違うがよく似た遊びがあると知ったことは、留学生たちにとって大切な経験だったことでしょう。

交流の時間はあっという間に過ぎてしまいました。お礼の言葉を述べた生徒さんは、「今日は楽しかったです。いつか香港に行ってみたいです」と言ってくれました。香港のことを好きになってくれたと感じられて、留学生たちもきつとうれしかったことと思います。



また会いましょう！

今回の交流は、尾戸小の人たちと、カナダ人の先生、地域住民の方々、そしてアジアからの留学生たちが一緒に集った、出身地も年代も幅広い交流の場になりました。留学生たちにとっても、普段はなかなか知り合うことのない人たちと出会うことのできた、大切な交流でした。このような機会を与えられたことに、深く感謝します。

尾戸小学校の皆さん、ぜひまた交流をしましょう。そのときを楽しみにしています。

NIU 異文化理解教室

2015年02月14日

【異文化理解教室】佐世保市立小佐世保小学校で NIU 異文化理解教室を行いました。

1月20日（火）、佐世保市立小佐世保小学校で、5年生の皆さんを対象に、NIU 異文化理解教室を行いました。本学からは、エバン・バンギリナン（フィリピン）、陳芍君（ちんしゃくくん、中国広東省）、李嘉雯（り かまん（ジェシー）、香港）の3人の留学生が参加しました。

この日の交流は3部構成で、第1部は留学生の国の子どもの遊びの紹介、第2部は留学生の国の文化と日本の文化の紹介、そして第3部は給食をいただきながらの交流でした。

第1部では、「テイッシュ鬼」（香港）、「100円と50円」（中国の鬼ごっこ）、「ルクソン・ルビ」（フィリピンの長縄跳び）の3つを紹介しました。鬼ごっこや縄跳びで一緒に走り回ったり、笑ったりすることで、心の中の壁がすぐに低くなりました。

留学生たちが遊び方を説明するとき、小佐世保小5年生の皆さんは、静かに注意深く聞いて、遊び方をすぐに理解していました。外国から来たお兄さんやお姉さんたちの話を真剣に聞くこと自体、実は大切なコミュニケーションであり、国際交流の一つだと思います。



「100円と50円」の遊び方を説明する陳芍君さん



エバンさんと一緒に「100円と50円」で遊んでいます

第2部前半では、香港のデザートと正月料理、中国広東省のお茶と朝食、そしてフィリピンの文化を紹介しました。

紹介された食べ物やデザートの写真を見て、「うわー！」「おいしそう！」の声が何度も上がりました。また、「ガンドンレンチャ」という中国語など、留学生たちが話した外国の言葉を、自分からまねて話す人たちがいました。

「おいしそう！」も中国語のまねも、無意識のうちに言ったのだらうと思います。しかし、こうした反応は留学生たちの文化の素晴らしさを認めていることであり、自分でもその文化に触れてみたいという気持ちの自然な表れだと思います。このように相手の文化を受け止められることも、国際交流のために大切です。

第2部後半では、小佐世保小5年生の皆さんから、着物、わりばし鉄砲、将棋、あやとり、お手玉、けん玉、おせち、和食（米、卵焼きなど）、マンガ、神社と、すしについて教えてもらいました。留学生たちは、日本の文化についてとても詳しくなりました。



エバンさんがフィリピンの民族衣装（マリアクララとバロンタガログ）を紹介しています



小佐世保小5年生の皆さんとジェシーさんの集合写真

小佐世保小学校5年生の皆さんと先生方、楽しく有意義な国際交流の機会をいただき、
どうもありがとうございます。また来年もこのような交流ができることを願っております。

NIU 異文化理解研究室

APPENDIX

NIU 異文化理解研究室所有教材一覧

民族衣装類				
NO	名称	備考	国(地域)	個数
1	デール (水色・女用)		内モンゴル	1
2	デール (紺色・男用)		内モンゴル	1
3	帽子 (赤)		内モンゴル	1
4	帽子 (青)		内モンゴル	1
5	軍人コート		中国	1
6	内モンゴル相撲着	4点セット	内モンゴル	2
7	チャイナ服 (赤色・男児用)		中国	1
8	チャイナ服 (青色・男児用)		中国	1
9	帽子 (赤紫)	つば付	中国	1
10	帽子 (青)	つば付	中国	1
11	帽子 (黄)		中国	1
12	帽子 (赤青)		中国	1
13	チャイナドレス (薄紫・女児用)		中国	1
14	チャイナドレス (水色・女児用)		中国	1
15	チャイナドレス (桃色・女児用)		中国	1
16	チャイナドレス (赤色・女児用)		中国	1
17	シューズ (黒)		中国	1
18	シューズ (ピンク)		中国	1
19	シューズ (赤)		中国	1
20	アオザイ (黄色)	黄色のワンピースと白ズボン	ベトナム	1
21	アオザイ (水色)	水色のワンピース	ベトナム	1
22	チマ・チョゴリ (桃色・女児用)	桃色のワンピースと上着、白いポシェット	韓国	1
23	チマ・チョゴリ (赤色・女児用)	赤色のワンピースと上着、桃色のポシェット	韓国	1
24	パジ・チョゴリ (紺&桃・男児用)	紺色上着と桃色のズボン、紺のポシェット	韓国	1
25	パジ・チョゴリ (赤紫色・男児用)	赤紫色上着と藤色のズボン、赤のポシェット	韓国	1
26	二重ブーツ	男性用茶色	外モンゴル	1
27	外モンゴル相撲衣装	上下	外モンゴル	1
28	デール (えんじ色・女性)	帯 (グリーン) 付き	外モンゴル	1
29	デール (ベージュ・男性)	帯 (ブルー) 付き	外モンゴル	1
30	チャイナ服 (黒・男性・大)	上下	中国	1

31	チャイナ服 (黒・男性・大)		中国	1
32	チャイナドレス (薄紫・L)		中国	1
33	チャイナドレス (薄紫・M)		中国	1
34	太極拳用 (薄緑・5)		中国	1
35	太極拳用 (薄緑・6)		中国	1
36	オサリー (緑)		スリランカ	1
37	きもの (ピンク・花)		日本	1
38	きもの (紅梅)		日本	1
39	きもの (紺 花車)		日本	1
40	きもの (水色 流れ)		日本	1
41	きもの (白 ぼたん)		日本	1
42	きもの (訪問着)	寄贈 Madam Taki	日本	1
43	ロンジー(ピンク)*		ミャンマー	1
44	ロンジー(エンジ)*		ミャンマー	1
45	男性用きもの一式*		日本	1
46	チマチョゴリ(女性)*	47 とペア	韓国	1
47	パジチョゴリ(男性)*	46 とペア	韓国	1
48	ツルマギ(男性)*		韓国	1
49	靴(女性)*		韓国	2
50	靴下(女性)*		韓国	2
51	チマチョゴリ(赤・女性)*		韓国	1
道具類				
1	じゃんけんボード		手作り	
2	ユッノリ	遊具 (伝統的なすごろく、ボードゲーム)	韓国	10
3	チェギ	遊具 (伝統的な蹴鞠)	韓国	10
4	中国秘史 (内モンゴル)	本	内モンゴル	
5	杯 (内モンゴル)		内モンゴル	
6	中国語版どらえもんすごろく		香港	
7	Mikado Spiel		香港	
8	お守り	万事勝意・恭喜發財と書かれているの	中国	4
9	らんたん	縮小版	中国	6
10	お守り	黄金萬雨と書かれているもの	中国	2
11	お守り	由意、吉祥と書かれているの	中国	2
12	らっかせいのついた飾り物		中国	2

13	はしとナプキンのセット		内モンゴル	2
14	童謡CD 2枚組	韓国語童謡	韓国	
15	歌謡曲テープ		中国	
16	CD「二胡」		中国	
17	CD「草原浪漫曲」	ビデオクリップ	内モンゴル	
18	馬頭琴		内モンゴル	
19	輪ゴム製の縄		手作り	
20	チェス		香港	
21	Flight Chess		香港	
22	お手玉セット		香港	
23	飛行機のおもちゃ		香港	
24	亀			
25	おばけ		香港	
26	すごろく		香港	
27	Chinese Checkers		香港	
28	絵葉書		外モンゴル	9
29	モンゴル相撲人形		外モンゴル	4
30	モンゴルチェス		外モンゴル	2
31	モンゴル木組み		外モンゴル	2
32	モンゴル羊骨遊具(短・長)		外モンゴル	2・2
33	モンゴル羊骨(黒袋・子袋入り)		外モンゴル	41
34	モンゴルたばこケース(袋)		外モンゴル	1
35	地図(モンゴル)		外モンゴル	1
36	モンゴル家屋パオ模型		外モンゴル	1
37	トッポギ調理セット		手作り	1
38	将棋2種		中国	3
39	正月カザリ(きりえ)	紙	中国	7
40	正月カザリ(きりえ金)	紙	中国	2
41	正月カザリ(ピーナッツ)	金	中国	2
42	正月カザリ(豚)	金	中国	1
43	正月カザリ(唐辛子)	布	中国	1
44	ぬいぐるみ(豚小)	布	中国	1
45	ぬいぐるみ(豚大)	布	中国	1
46	童謡CD		中国	1
47	日本の歌CD		中国	1

Appendix

48	中国地図		中国	1
49	茶器		中国	1
50	京劇仮面		中国	5
51	独楽		中国	2
52	スリランカ国旗		スリランカ	1
53	竹板	中国のカスタネット	中国	4
54	中国の剣（ミニチュア 18 本）		中国	1
55	扇		中国	1
56	中国少林寺功夫		中国	2
57	チャイナドレス（ミニチュア）		中国	4
58	香袋		中国	4
59	京劇仮面		中国	3
60	京劇仮面（ミニチュア 10 入り）		中国	2
61	箸（袋入り）		中国	10
62	蹴鞠*	寄贈 田淵幸親	ミャンマー	1
6 3	アオザイ（赤色・結婚式用）	寄贈 山口喜和氏 （山口香さんの保護者）	ベトナム	1

『NIU異文化理解教室』申込書

		ご記入日	年	月	日
学校名					
カナ					
ご担当者名					
連絡先住所	〒				
電話番号	()				
FAX番号	()				
E-MAIL	@				

対象学年	年生					
受講生徒数	人					
希望のテーマ (おおよそで かまいません)						
出前授業 実施希望日時	第1希望	月	日()	:	~	:
	第2希望	月	日()	:	~	:
	第3希望	月	日()	:	~	:



NIU異文化理解研究室
The Center for Cross-Cultural Understanding at NIU

〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7

長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科内

TEL&FAX : 0956-20-5545(中野研究室)

E-MAIL : harusan@niu.ac.jp

URL : <http://www.niu.ac.jp/~ibuken/index.html>

編集後記

国際観光学科共同研究「多文化共生社会と留学生—異文化理解教室をめぐる—」の3年目の報告書をお届けします。異文化理解教室の活動は12年目に入りました。留学生メンバーは中国と韓国をはじめ、ネパール、ミャンマー、ベトナム、フィリピンから参加しました。

今年度は、佐世保地域における国際交流の大先輩グループとの交流、小学校教員との結びつきを深めた懇談会、将来の教員の卵である中央大学の大学院生・大学生の方たちからのインタビューという、従来にない新たな交流の局面が創られました。

論説についてはまず、国際交流にあたり、「親しみ」や「安心」を感じてもらふこと、信頼感づくりが重要であることが示されました。またイブケンが地域社会と留学生たちを結びつけていること、さらには留学生たちにとってイブケンが、コミュニケーション能力を高めるのに貢献していることも明らかにされました。

留学生メンバーたちの報告からは、不安と期待の入り混じった気持ちでイブケンに出席したことや、日本の人たちと心を通わすことができうれしかったことなどが分かります。日本の子どもたちのみに止まらず、日本の学校の先生方ならびに学校のある地域社会の住民の方々との交流を喜ぶ声もあります。またイブケンの今後の活動のための示唆・提案もありました。こうした声をぜひ活かしていきたいと思えます。

今年度の延べ出前校は7校、ならびに1団体、出前回数12回、対象者数860名、留学生メンバーは57名となりました。

このようなすばらしい国際交流の機会を与えてくださった佐世保インターナショナルレディーズクラブの皆様と、佐世保市立江上小学校、佐世保市立小佐世保小学校、佐世保市立広田小学校、佐世保市立宮小学校、長崎市立尾戸小学校の校長先生をはじめとする、ご担当の先生方に、改めて衷心よりお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。(滝知則記)

多文化共生社会と留学生—異文化理解教室をめぐる— (平成26年度)

2015年2月27日 発行

編集・発行

NIU 異文化理解研究室

発行所

長崎国際大学人間社会学部国際観光学科

〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7

TEL 0956-39-2020 FAX 0956-39-3111

印刷所

オムロプリント株式会社

〒856-0016 長崎県大村市原町 84-3

TEL 0957-54-7000 FAX 0957-54-9588
